

令和 6 年度

三戸町教育委員会の事務の管理及び
執行状況の点検評価に関する報告書

－令和 6 年度事業の点検評価－

三戸町教育委員会

目 次

◇ 点検・評価の概要	1
◇ 令和6年度三戸町教育基本方針	3
◇ 令和6年度施策別主要事業一覧表	10
◇ 施策分野ごとの重点項目に関する点検及び評価	

1 教育環境の整備促進等

重点項目	点検評価の対象事業	頁
(1) 小中一貫教育体制の充実	ア 小中一貫教育推進委員会	12
(2) 就学支援等の充実	イ 要保護・準要保護児童生徒就学援助事業	12
	ウ 特別支援教育就学奨励事業	13
	エ 奨学金貸与事業	13
	オ 幼児教育無償化事業	13
	カ 第三子以降子育て支援事業	14
	キ 学び応援！入学祝い金支給事業	14
(3) 教育活動支援のための補助事業の充実	ク 全国大会等児童派遣費補助事業	15
	ケ 中体連等派遣費補助事業	15
	コ 教育振興協議会支援事業	16
(4) その他教育環境の充実	サ スクールバス等運行事業	17
	シ 部活バス・部活支援バス運行事業	17
	ス 児童・生徒・教職員健康診断及び就学時健診	18
	セ コミュニティスクール運営事業	18
	ソ 部活動地域移行支援事業	19
	タ 学習習慣形成事業	19
	チ 三戸町立学校給食共同調理場運営事業	21
	ツ 小中学校給食無償化事業	22
	テ 三戸高等学校との連携推進（魅力化推進事業補助金）	22
	ト 三戸高等学校との連携推進（高校昼食提供事業）	23
	ナ 三戸高等学校との連携推進（三戸高校魅力化コーディネーター設置事業）	24

2 学校教育指導の重点

重点項目	点検評価の対象事業	頁
(1)小中一貫教育の推進	ア 三戸町学校教育研究大会	2 5
	イ 小中一貫教育推進事業	2 5
	ウ 特色ある教育活動推進事業（三教研）	2 7
	エ 小中乗り入れ授業実施	2 8
	オ 小中一貫教育支援特別講師設置事業	2 9
	カ 英語科教育コーディネート事業	2 9
(2)授業の充実	キ 授業技術研修講座（三教研）	3 0
(3)立志科の充実	ク 立志科推進事業補助金交付事業	3 1
(4)体育・健康教育の充実	ケ 基本的生活習慣（生活リズム）講演事業	3 2
	コ 栄養教諭による食の出前授業	3 2
(5)生徒指導の充実	サ 生活習慣改善による不登校対策事業	3 2
	シ 学級経営のための調査（Q-U、ASSESS）（三教研）	3 3
	ス 教育相談室運営（三教研）	3 4
	セ 不登校等連絡会議（三教研）	3 4
(6)キャリア教育の推進	ソ 立志科推進事業補助金交付事業（再掲）	3 5
(7)特別支援教育の充実	タ 小中一貫教育チューター設置事業	3 6
	チ 教育支援委員会（三教研）	3 6
	ツ 教育支援委員会学習会（三教研）	3 7
(8)環境教育の推進	テ 立志科推進事業補助金交付事業（再掲）	3 8
(9)国際化に対応する教育の推進	ト 外国語指導助手（ALT）招致事業	3 9
	ナ 英検受験料補助	3 9
	ニ 中学生海外派遣事業	4 0
(10)情報化に対応する教育の推進	ヌ ICT支援員設置事業	4 0
	ネ 三戸地方未来塾補助事業	4 1
	ノ GIGAスクールサポート業務	4 2
(11)安全・安心な学校環境づくりの推進	ハ 学校施設・設備整備	4 2
	ヒ 日本スポーツ振興センター災害共済給付事業	4 3
	フ 児童生徒緊急搬送タクシー運行事業	4 3
(12)教員研修の充実	ヘ 授業実践支援事業（三教研）	4 4
	ホ 教育相談研修講座（三教研）	4 4
	マ 学級経営研修講座（三教研）	4 5
	ミ 授業技術研修講座（三教研）（再掲）	4 5
(13)複式教育の充実	ム 学級経営のための調査（Q-U、ASSESS）（三教研）（再掲）	4 5

3 社会教育指導の重点

重点項目	主 要 事 業	頁
(1) 学校・家庭・地域の協働による未来を担う人財の育成	ア さんのへ農業小学校支援事業	4 7
	イ 三戸町子ども会育成連絡協議会支援事業	4 7
	ウ 伝統芸能保存継承事業	4 8
	エ ふれあい活動事業	4 9
	オ 放課後子ども教室推進補助事業	4 9
	カ 青少年健全育成三戸町民会議運営事業	4 9
	キ 三戸町少年指導センター運営事業	5 0
	ク 家庭教育学級開催事業	5 1
(2) 活力ある持続可能な地域づくりに向けた人財の育成	ケ 二十歳を祝う会開催事業	5 1
	コ 三戸町人材活用講師派遣事業	5 1
	サ ふれあい活動事業（再掲）	5 2
(3) 生涯を通じた学びと社会参加の推進	シ 三戸オープンキャンパス（旧：公民館講座）	5 2
	ス 公民館分館講座委託事業	5 3
	セ 気軽に学べる歴史セミナー（旧：三戸町歴史講座）	5 4
	ソ 高齢者学級寿教室	5 4
	タ 三戸キッズチャレンジ（旧：公民館まつり開催事業）	5 5
	チ 公民館まつり開催事業	5 6
(4) 社会教育推進のための基盤整備	ツ 三戸町中央公民館管理運営	5 6
	テ 社会教育関係団体補助事業	5 7
	ト サークル活動への支援	5 7
	ナ 三戸町立図書館の運営	5 8
(5) 生涯スポーツの振興	ニ 総合優勝制町内対抗スポーツ大会	5 8
	ヌ 町民歩け歩け運動	5 9
	ネ 三戸町スポーツ賞表彰	5 9
	ノ 各種スポーツ大会補助事業	6 0
	ハ 三戸町体育協会支援事業	6 0
	ヒ スポーツ指導者の養成・活用	6 1
	フ 勤労者体育施設管理運営（武道館・サンスポ）	6 1
	ヘ スポーツ少年団の育成支援	6 2
	ホ 体育館等管理運営（町民体育館・松原運動公園）	6 2
	マ アップルドーム管理運営	6 2
	ミ パークゴルフ場管理運営	6 3
	ム 町民プール管理運営	6 4

(6) 芸術・文化活動の充 実と文化財の保存	メ	三戸町立版画工房運営	6 5
	モ	芸術文化団体等補助事業	6 5
	ヤ	三戸町文化賞表彰	6 5
	ユ	三戸城跡保存活用事業	6 6
	ヨ	歴史民俗資料館運営事業	6 7
	ラ	地域学習サポート事業	6 8
	リ	伝統芸能保存継承事業（再掲）	6 9
	ル	歴史講演事業	7 0

点検・評価の概要

1. 趣旨

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の規定により、教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を議会に提出するとともに、公表することとされています。

この法律を受け、三戸町教育委員会では、令和6年度における教育に関する事務の点検及び評価を実施し、その結果を報告書としてまとめました。

2. 点検・評価の方法

(1) 三戸町教育基本方針

三戸町教育委員会では、令和6年3月に策定した令和6年度三戸町教育基本方針に定める学校教育指導の方針と重点及び社会教育指導の方針と重点に基づき各種事業を実施しています。

(2) 点検・評価の対象

点検・評価にあたっては、別添「令和6年度施策別主要事業一覧表」の3つの施策分野ごとに掲げる重点項目を推進するための主要事業（95事業（再掲含む））を点検・評価の対象としました。

(3) 学識経験者（外部評価委員）の知見の活用

点検・評価の客観性を確保するため、学識経験者を「外部評価委員」として委嘱し、点検・評価の実施方法や内容について意見をいただき、これを参考に報告書を作成しました。

○外部評価委員

氏 名	役 職 等
友田博文	元三戸町教育長（青森市）
木村明彦	元小学校校長（三戸町）

3. 評価報告書の作成

評価報告書は、主要事業（95事業）ごとに、（1）事業の概要、（2）事業実績、（3）成果と課題、（4）事業の方向性の記述により作成しています。

4. 令和6年度点検・評価作業の経過

○外部評価委員会議（R7.3.21）

- ①令和6年度評価に係る実施要綱の確認
- ②令和6年度の事業取組みについて説明
- ③点検・評価の報告書の作成方法についての確認
- ④点検・評価作業日程についての確認

○外部評価委員による評価のための事業調査（随時）

○教育委員会事務局職員による事業評価シートの作成（R7.3～4）

○三戸町教育委員会へ報告書提出（R7.5.21）

5. 評価報告書の公表

評価報告書は、三戸町役場ホームページに掲載し公表します。

参考

地方教育行政の組織及び運営に関する法律

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第二十六条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第一項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第四項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

令和6年度三戸町教育基本方針

【 教育施策の方針 】

三戸町教育委員会は、郷土に誇りを持ち、多様性を尊重し、創造力豊かで、新しい時代を主体的に切り拓く人づくりを目指し、夢や志の実現に向け、知・徳・体を育む小中一貫教育を推進します。

また、学校教育と社会教育とが一体となり、誰でも生涯を通じて主体的に学ぶことができる生涯学習社会の実現を図ります。

そして学校、家庭、地域社会が教育におけるそれぞれの役割と責任を自覚するとともに、相互の連携・協力に努め、個性豊かでうるおいのある教育を推進します。

【令和6年度三戸町学校教育指導の方針と重点】

1 方 針

郷土に誇りを持ち、多様性を尊重し、創造力豊かで、新しい時代を主体的に切り拓く児童生徒を育成するため、教育は人づくりという視点に立って、学校運営に創意工夫をこらし、夢や志の実現に向け、知・徳・体を育む小中一貫教育の推進に努める。

2 重 点

(1) 小中一貫教育の推進

義務教育の9年間を見通し、子どもの発達段階と学習の連続性を重視した小中一貫教育を積極的に推進する。

ア 心豊かでたくましい児童生徒の育成のための小・中学校義務教育9年間を見通した学力観、指導観の確立

イ 児童生徒が、将来社会の一員として生きていくために必要となる基礎的な知識や技能の育成

ウ 確かな学力の確立と、豊かな心を育むための9年間を見通した教育課程の編成と実践

(2) 授業の充実

一人一人の子どもが、各教科及び立志科等において、主体的・対話的で深い学びを通して確かな学力を身に付けることができるよう、目指す資質・能力を明確にするとともに、言語活動の充実を図りながら、一人一人の能力・適性に応じた指導と学習習慣の育成に努める。

ア 主体的・対話的で深い学びの実現を図る指導計画等の整備

イ 「知識及び技能」の習得と「思考力、判断力、表現力等」の育成、「学びに向かう力・人間性等」の涵養に向けた教材研究の深化

ウ 一人一人の学習の過程や成果の的確な把握と指導の改善につながる評価の工夫

エ 各教科等の特質に応じた体験活動や問題解決的な学習を重視した指導の工夫

オ 学校図書館やICTなどを活用した、子どもの学びを支援する学習環境と学習活動の充実

(3) 立志科の充実

一人一人の子どもが、豊かな心を持ち人間としての生き方あり方を自覚し、将来に向けてたくましく、主体的な行動ができる人間形成を目指し、その資質や能力の育成に努める。

ア 立志科授業の指導工夫と研究

イ 郷土を愛する心を育む指導の充実

ウ 特別の教科道徳、特別活動、総合的な学習の時間を包摂した立志科の教育活動の創意工夫

エ 探究的な見方・考え方を働かせ、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力の育成

オ 立志科を推進する指導体制と全体計画の整備・充実

(4) 体育・健康教育の充実

一人一人の子どもが、生涯にわたって自ら進んで運動に親しみ、健康で安全な生活と豊かなスポーツライフを送ることができるよう、家庭や地域社会との連携を図りながら、心と体を一体として捉え、健やかな体を育む教育の推進に努める。

ア 運動に親しむ資質や能力の育成及び体力の向上を図る指導の充実

イ 健康に関する知識を身に付け、積極的に健康な生活を実践できる指導の充実

ウ 食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身に付けることができる指導の充実

エ 安全な生活を送る基礎を培い、安全で安心な社会づくりに参加し貢献できる資質・能力の育成

(5) 生徒指導の充実

一人一人の子どもが、健やかに成長することができるよう、家庭や地域社会及び関係機関との連携を図りながら、心の結びつきを基調として支えるとともに問題行動・不登校等の未然防止、早期発見、早期対応に努める。

ア 基本的な生活習慣を育成する協働的な指導体制の充実

イ 生徒指導の実践上の視点を生かした学習指導と学年・学級経営の充実

ウ 児童理解・生徒理解に基づいた教育相談の充実

エ 児童生徒が主体となるいじめ防止活動の推進と組織的な対応の徹底

(6) キャリア教育の推進

一人一人の子どもが、学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら、社会的・職業的自立ができるよう、必要な基盤となる資質・能力の育成に努める。

ア 立志科におけるキャリア教育指導体制の整備・充実

イ 9年間を見通した将来の生き方指導・進路指導の充実

ウ 児童生徒の発達の段階に応じた勤労観・職業観の育成

(7) 特別支援教育の充実

発達障害を含む障害のある子どもが、障害による学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服するとともに、その持てる力を最大限に発揮して自立や社会参加ができるよう、一人一人の教育的ニーズを把握し、適切な指導及び必要な支援に努める。

ア 校内支援体制の整備・充実

イ 個別の教育支援計画の作成と活用による関係機関と連携した支援の充実

ウ 個別の指導計画の作成と活用による指導の充実

エ 交流及び共同学習による相互理解の促進

(8) 環境教育の推進

一人一人の子どもが、身近な環境や環境問題に関心を持ち、人間と環境との関わりについて理解を深め、環境の保全やよりよい環境づくりのために、環境問題に主体的に取り組む態度や実践力の育成に努める。

ア 教科等間の関連を踏まえた指導の工夫

- イ 立志科における地域の環境の実態に即した指導の工夫
- ウ 環境に関わる体験学習の充実

(9) 国際化に対応する教育の推進

一人一人の子どもが、国際社会で主体的に生きる日本人としての基礎的資質を養うため、人間尊重の精神を基盤として、我が国や諸外国の文化と伝統について関心と理解を深めるとともに、国際社会に貢献できるよう、国際理解教育の充実に努める。

- ア 異文化に対する理解やそれを尊重する態度の育成
- イ 英語によるコミュニケーション能力の育成のため、A L T（外国語指導助手）をはじめとするネイティブスピーカーを活用した英語科（小学校）の推進

(10) 情報化に対応する教育の推進

一人一人の子どもが、情報モラルを含む情報活用能力を身に付けることができるよう、系統的・体系的な情報教育の推進に努める。

- ア 立志科を中心とした情報教育を推進する指導体制の整備・充実
- イ 学習指導における I C T の適切な活用
- ウ 家庭や地域社会と連携した情報モラルに関する指導の充実

(11) 安全・安心な学校環境づくりの推進

一人一人の子どもが、安全で安心して学習できる学校環境づくりのため、学校・家庭・地域とが連携した取り組みの充実に努める。

- ア 学校警察連絡協議会等における情報交換や関係機関との連携・協力の推進
- イ 学校施設・設備保全の推進
- ウ 防災・防犯等安全教育の充実

(12) 教員研修の充実

教員が教育公務員としての使命と責任を自覚し、豊かな人間性、広い社会性、深い専門性を身に付け充実した教育活動を実践することができるよう、教員に対する計画的・実践的な研修の充実に努める。

- ア 教員の資質の向上に関する指標を踏まえた研修の推進
- イ 日常的に学び合い、指導力を高め合う校内研修体制の整備・充実
- ウ 学習指導要領、三戸町小中一貫教育要領に基づく実践的研究の充実
- エ 学校の教育課題解決のための実践的研究の充実
- オ 家庭や地域社会と連携し、地域の教育資源を活用した特色ある教育活動の研究・推進

(13) 複式教育の充実

少人数の特性を生かし、一人一人の個性・能力の伸長を図るとともに、社会性の育成に努める。

- ア 学校運営・学級経営の創意工夫
- イ 複式指導の充実
- ウ 複式授業研修の充実

【令和6年度三戸町社会教育行政の方針と重点】

1 方 針

町民が、生涯にわたって自己の啓発・向上を目指し、生きがいのある充実した生活を送るとともに、人と人とのつながりを大切にする豊かで住みよい地域社会をつくり出すことができるよう、一人一人の生涯にわたる学習と社会参加を実現する社会教育の推進に努める。

2 重 点

(1) 学校・家庭・地域の協働による未来を担う人財の育成

多様な体験活動機会の充実を図り、心豊かでたくましい青少年の育成に努める。

ア 青少年の体験活動の充実

(ア) 「さんのへ農業小学校」の支援

(イ) 町内子ども会、三戸町子ども会育成連絡協議会の活動支援

(ウ) 異世代・異年齢交流事業の推進

イ 地域が支えるキャリア教育の充実

(ア) 「ナナメ」の関係づくりを意識した学習機会の推進（子ども会活動）

(イ) ふるさと意識を醸成する場の拡充（芸能保存会等補助事業）

(ウ) キャリア教育の推進（出前授業・職場体験）

ウ 子どもの読書活動の充実

(ア) 読み聞かせボランティアグループの育成と支援

(イ) 読書活動推進のための啓発と情報提供

エ 地域全体で子どもを育む活動の充実

(ア) 地域住民と子どもをつなぐ実践の場の工夫（ふれあい活動）

(イ) 子どもの健全な育成に向けての住民の意識や目的の共有化を図る工夫（放課後子ども教室推進事業）

(ウ) 青少年健全育成三戸町民会議との連携

(エ) 三戸町少年指導センターとの連携

オ 家庭教育支援の充実

(ア) 「三戸町家庭教育学級」事業の充実

(イ) 三戸町連合父母と教師の会との連携

(2) 活力ある持続可能な地域づくりに向けた人財の育成

地域活動の実践者、コーディネーター等のネットワークづくりに努める。

ア 地域活動の実践者、コーディネーターの養成

イ 次代を担う若者の育成

ウ 地域活動に関わる人財のネットワーク形成の支援

(3) 生涯を通じた学びと社会参加の推進

町民一人一人の主体的な学習を推進するとともに、学習の成果を地域で生かすことができるよう、社会参加活動の支援の充実に努める。

ア 関係機関との連携による多様な学習機会の支援

(ア) 中央公民館講座、分館講座、歴史講座、高齢者学級寿教室の開講

(イ) 大学との連携による講演会及び学習会（園・保育所・学校の保護者対象）の開催

(ウ) 「子ども公民館講座」の開講

イ 学習成果を生かした社会参加活動の支援

(ア) 学びの成果を生かす機会の拡充と積極的な活用

(イ) 広域的な情報収集とコーディネート機能の拡充

(ウ) 学習者や愛好者などによる自主グループ・サークル活動への支援

(4) 社会教育推進のための基盤整備

生涯学習活動の拠点となる社会教育施設の機能充実及び活用促進に努める。

ア 社会教育推進体制の充実

(ア) 事業評価の充実

(イ) 県及び他市町村の学習情報の収集・提供

イ 社会教育施設の機能の充実と活用の促進

(ア) 利用者の視点に立った環境の工夫

(イ) 町民の学習ニーズの把握

ウ 社会教育関係職員の養成と資質の向上

(ア) 研修等への積極的参加

(イ) 社会教育主事講習への計画的派遣

エ 社会教育関係団体等の活動の支援

(ア) 社会教育関係団体等事業の支援

(イ) 自主グループ・サークルの活動支援

(5) 生涯スポーツの振興

幅広い層の町民が、健康で明るく豊かな生活を送ることができるよう、スポーツに親しむ機会の拡大に努める。

ア 地域スポーツの推進

(ア) 総合型地域スポーツクラブの支援

(イ) 各種スポーツ大会の開催及び大会へのニュースポーツの導入

(ウ) 三戸町体育協会との連携

イ スポーツに関わる人財の養成と活用

(ア) スポーツ推進委員の研修等への積極的参加

(イ) スポーツ推進委員の専門性を活かす場の拡充

(ウ) スポーツ団体との連携

ウ スポーツ活動推進のための環境整備と活用の促進

(ア) 利用者の視点に立った環境の工夫

(イ) 町民のスポーツニーズの把握

(6) 芸術・文化活動の充実と文化財の保存

芸術・文化活動に親しむ多様な機会の提供並びに文化財の適切な保存とその活用に努める。

ア 芸術・文化活動機会の充実

(ア) 町内の芸術・文化関係団体等との連携

(イ) 三戸町立版画工房の運営

イ 後継者育成支援、発表機会の充実

(ア) 後継者育成事業の推進

(イ) 三戸町文化協会、三戸町民俗芸能保存会との連携

(ウ) 発表機会の充実

ウ 文化財の保存及び活用

(ア) 文化財の保護と保存の推進

(イ) 文化財の調査、研究及び指定の推進

(ウ) 国史跡三戸城跡の考古学的調査及び保護・活用の推進

(エ) 三戸町立歴史民俗資料館における展示及び教育普及の充実

◇令和6年度 施策別主要事業一覧表

分野	重点項目	細目	主要事業
教育環境の整備促進	(1)小中一貫教育体制の充実		ア 小中一貫教育推進委員会
	(2)就学支援等の充実		イ 要保護・準要保護児童生徒就学援助事業
			ウ 特別支援教育就学奨励事業
			エ 奨学金貸与事業
			オ 幼児教育無償化事業
			カ 第3子以降子育て支援事業
			キ 学び応援！入学祝い金支給事業
	(3)教育活動支援のための補助事業の充実		ク 全国大会等児童派遣費補助事業
			ケ 中体連等派遣費補助事業
			コ 教育振興協議会支援事業
	(4)その他教育行政の推進		サ スクールバス等運行事業
			シ 部活動バス・部活動支援バス運行事業
			ス 児童・生徒・教職員健康診断及び就学時健診
			セ コミュニティスクール運営事業
			ソ 部活動地域移行支援事業
			タ 学習習慣形成事業（学習コーチ・探究コーチ事業）
			チ 三戸町立学校給食共同調理場運営事業
			ツ 小中学校給食無償化事業
			テ 三戸高等学校との連携推進（魅力化推進事業補助金）
			ト 三戸高等学校との連携推進（高校昼食提供事業）
			ナ 三戸高等学校との連携推進（三戸高校魅力化コーディネーター設置事業）
学校教育指導の重点	(1)小中一貫教育の推進	①心豊かでたくましい児童生徒の育成のための小・中学校義務教育9年間を見通した学力観、指導観の確立 ②児童生徒が、将来社会の一員として生きていくために必要となる基礎的な知識や技能の育成 ③確かな学力の確立と、豊かな心を育むための9年間を見通した教育課程の編成と実践	ア 三戸町学校教育研究大会
			イ 小中一貫教育推進事業
			ウ 特色ある教育活動推進事業（三教研）
			エ 小中乗り入れ授業
			オ 小中一貫教育支援特別講師設置事業
			カ 英語科教育コーディネート事業
	(2)授業の充実	①主体的・対話的で深い学びの実現を図る指導計画等の整備 ②基礎的・基本的な知識及び技能の確実な習得に向けた教材の工夫と教材研究の深化 ③個に応じた学習過程と評価を重視した指導の工夫 ④各教科等の特質に応じた体験活動や問題解決的な学習を重視した指導の工夫 ⑤学校図書館やＩＣＴなどを活用した子どもの学びを支援する学習環境の充実	キ 授業技術研修講座（三教研）
	(3)立志科の充実	①立志科授業の指導工夫と研究 ②郷土を愛する心を育む指導の充実 ③特別の教科道徳、特別活動、総合的な学習の時間を包摂した立志科の教育活動の創意工夫 ④探究的な見方・考え方を働かせ、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を育成する工夫 ⑤立志科を推進する指導体制と全体計画の整備・充実	ク 立志科推進事業補助金交付事業
	(4)体育健康教育の充実	①運動に親しむ資質や能力の育成及び体力の向上を図る指導の充実 ②健康に関する知識を身に付け、積極的に健康な生活を実践できる指導の充実 ③食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身に付けることができる指導の充実 ④安全に関する情報を正しく判断し、安全を確保することができる指導の充実	ケ 基本的生活習慣（生活リズム）講演事業
			コ 栄養教諭による食の出前授業
	(5)生徒指導の充実	①運動に親しむ資質や能力の育成及び体力の向上を図る指導の充実 ②健康に関する知識を身に付け、積極的に健康な生活を実践できる指導の充実 ③食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身に付けることができる指導の充実 ④安全に関する情報を正しく判断し、安全を確保することができる指導の充実	サ 生活習慣改善による不登校対策事業
			シ 学級経営のための調査（Q-U、ASSESS）（三教研）
			ス 教育相談室運営（三教研）
			セ 不登校等連絡会議（三教研）
	(6)キャリア教育の推進	①立志科におけるキャリア教育指導体制の整備・充実 ②9年間を見通した将来の生き方指導・進路指導の充実 ③児童生徒の発達の段階に応じた勤労観・職業観の育成	ソ 立志科推進事業補助金交付事業（再掲）
(7)特別支援教育の充実	①校内特別支援体制の整備・充実 ②個別の教育支援計画の作成と活用による関係機関と連携した支援の充実 ③個別の指導計画の作成と活用による指導の充実 ④交流及び共同学習による相互理解の促進	タ 小中一貫教育チューター設置事業	
		チ 教育支援委員会（三教研）	
		ツ 教育支援委員会学習会（三教研）	

	(8)環境教育の推進	①教科等間の関連を踏まえた指導の工夫 ②立志科における地域の環境の実態に即した指導の工夫 ③環境にかかわる体験的活動の充実	テ 立志科推進事業補助金交付事業（再掲）
	(9)国際化に対応する教育の推進	①異文化に対する理解やそれを尊重する態度の育成 ②英語によるコミュニケーション能力の育成のため、A L T（外国語指導助手）をはじめとするネイティブスピーカーを活用した英語科（小学校）の推進	ト 外国語指導助手（A L T）招致事業
			ナ 英検受験料補助
			ニ 中学生海外派遣事業
	(10)情報化に対応する教育の推進	①立志科を中心とした情報教育を推進する指導体制の整備・充実 ②学習指導における I C T の適切な活用 ③家庭や地域社会と連携した情報モラルに関する指導の充実	ヌ ICT 支援員設置事業
			ネ 三戸地方未来塾補助事業
			ノ GIGA スクールサポート業務
	(11)安全・安心な学校環境づくりの推進	①学校警察連絡協議会等における情報交換や関係機関との連携・協力の推進 ②学校施設・設備保全の推進 ③防災・防犯等安全教育の充実	ハ 学校施設・設備整備
			ヒ 日本スポーツ振興センター災害共済給付事業
			フ 児童生徒緊急搬送タクシー運行事業
	(12)教員研修の充実	①教員の資質の向上に関する指標を踏まえた研修の推進 ②日常的に学び合い、指導力を高め合う校内研修体制の整備・充実 ③学習指導要領、三戸町小中一貫教育要領に基づく実践的研究の充実 ④学校のエデュケーション課題解決のための実践的研究の充実 ⑤家庭や地域社会と連携した特色ある教育活動の研究・推進	ヘ 授業実践支援事業（三教研）
			ホ 教育相談研修講座（三教研）
			マ 学級経営研修講座（三教研）
			ミ 授業技術研修講座（三教研）（再掲）
			ム 学級経営のための調査（Q-U、ASSESS）（三教研）（再掲）
	(13)複式教育の充実	①学校運営・学級経営の創意工夫 ②複式指導の充実 ③複式授業研修の充実	
3 社会 教育 指導 の 重 点	(1)学校・家庭・地域の協働による未来を担う人財の育成	①青少年の体験活動の充実 ②地域が支えるキャリア教育の充実 ③子どもの読書活動の充実 ④地域全体で子どもを育む活動の充実 ⑤家庭教育支援の充実	ア さんのへ農業小学校支援事業
			イ 三戸町子ども会育成連絡協議会支援事業
			ウ 伝統芸能保存継承事業
			エ ふれあい活動事業
			オ 放課後子ども教室推進補助事業
			カ 青少年健全育成三戸町民会議運営事業
			キ 三戸町少年指導センター運営事業
			ク 家庭教育学級開催事業
	(2)活力ある地域コミュニティの形成に向けた人財の育成	①地域活動の実践者、コーディネーターの養成 ②次代の地域を担う若者の育成 ③地域活動に関わる人財のネットワーク形成の支援	ケ 二十歳を祝う会開催事業
			コ 三戸町人材活用講師派遣事業
			サ ふれあい活動事業（再掲）
	(3)一人一人の主体的な学習と社会参加の推進	①関係機関との連携による多様な学習機会の支援 ②学習成果を生かした社会参加活動の支援	シ 三戸オープンキャンパス（旧：公民館講座）
			ス 公民館分館講座委託事業
			セ 気軽に学べる歴史セミナー（旧名称：三戸町歴史講座）
			ソ 高齢者学級寿教室
			タ 三戸キッズチャレンジ（旧：子ども公民館講座）
			チ 公民館まつり開催事業
	(4)社会教育推進のための基盤整備	①社会教育推進体制の充実 ②社会教育施設の機能の充実と活用の促進 ③社会教育関係職員の養成と資質の向上 ④社会教育関係団体等の活動の支援	ツ 三戸町中央公民館管理運営
			テ 社会教育関係団体補助事業
			ト サークル活動への支援
			ナ 三戸町立図書館の運営
	(5)生涯スポーツの振興	①地域スポーツの推進 ②スポーツに関わる人財の養成と活用 ③スポーツ活動推進のための環境整備と活用の促進	ニ 総合優勝制町内対抗スポーツ大会
			ヌ 町民歩け歩け運動
			ネ 三戸町スポーツ賞表彰
			ノ 各種スポーツ大会補助事業
			ハ 三戸町体育協会支援事業
			ヒ スポーツ指導者の養成・活用
			フ 勤労者体育施設管理運営（武道館・サンスポ）
			ヘ スポーツ少年団の育成支援
			ホ 体育館等管理運営（町民体育館・松原運動公園）
			マ アップルドーム管理運営
			ミ パークゴルフ場管理運営
			ム 町民プール管理運営
	(6)芸術・文化活動の充実と文化財の保存	①芸術・文化活動機会の充実 ②後継者育成支援、発表機会の充実 ③文化財の保存及び活用	メ 三戸町立版画工房運営
			モ 芸術文化団体等補助事業
			ヤ 三戸町文化賞表彰
			ユ 三戸城跡保存活用事業
			ヨ 歴史民俗資料館運営
			ラ 地域学習サポート事業
			リ 伝統芸能保存継承事業（再掲）
			ル 歴史講演事業

1. 教育環境の整備促進等

(1) 小中一貫教育体制の充実

〔ア〕 小中一貫教育推進委員会				
事業の概要	◆目的 小中一貫教育を推進するための基本方針に関することやその他の事項について検討し、必要に応じその結果を教育長に提言する。 ◆事業費 23千円（財源 一般23千円）			
実績	◆小中一貫教育推進委員会（令和7年3月21日） （1）報告 令和6年度小中一貫教育の取組について （2）協議 令和7年度小中一貫教育の取組と推進体制について （委員）町内各学校長、学識経験者、三戸地方教育研究所指導主事			
成果と課題	◆成果 ・学識経験者の指導助言により、検討課題とされた事項を改善することができた。 ・令和7年度の取組計画に対する承認と小中一貫教育推進体制を確認することができた。 ◆課題 ・小中相互の乗り入れ授業や小学校間の交流授業の促進、基礎学力を定着させるパワーアップ学習の計画的な実施、9年間を見通した各教科の系統表の作成など、小中一貫教育の更なる推進に向けた継続的な協議が必要である。			
事業の方向性	継続	○	拡充	
	改善		縮小	

(2) 就学支援等の充実

〔イ〕 要保護・準要保護児童生徒就学援助事業				
事業の概要	◆目的 経済的に就学困難な児童生徒の保護者に対し、学用品費等を援助することにより、義務教育の円滑な実施を図ることを目的とする。 ◆事業費 7, 8 6 0 千円（財源 国庫補助 5 3 千円・一般 7, 8 0 7 千円）			
実 績	◆支給実績			
	（１）支給費目	学用品費、新入学用品費、通学品費、医療費、校外活動費、修学旅行費		
	（２）認定状況		小学校	中学校
		要保護	0 名	2 名
		準要保護	4 1 名	3 2 名
		児童生徒に占める割合	1 3 . 1 %	1 6 . 7 %
	支給額	3, 2 7 6 千円	4, 5 8 4 千円	
成果と課題	◆成果 ・経済的困窮世帯の児童生徒の就学機会の確保及び保護者の経済的負担軽減につながっている。 ◆課題 ・特になし。			
事業の方向性	継続改善	○	拡充 縮小	

〔ウ〕 特別支援教育就学奨励事業				
事業の概要	◆目的 特別支援学級へ就学する児童生徒の保護者の経済的負担軽減のため、就学に必要な経費について一部を補助し、特別支援教育の普及奨励を図る。 ◆事業費 97千円（財源 国庫補助48千円・一般49千円）			
実績	◆支給内容 （１）支給費目 学用品費、新入学用品費、修学旅行費、校外活動費、オンライン通信費 （２）支給人数 小学校3名、中学校2名 合計5名（要・準要保護、辞退者除く） （３）支給額 小学校 17,460円、 中学校 79,590円			
成果と課題	◆成果 ・特別支援学級在籍児童生徒の就学機会の確保及び保護者の経済的負担の軽減につながっている。 ◆課題 ・特になし。			
事業の方向性	継続	☐	拡充	
	改善		縮小	

〔エ〕 奨学金貸与事業																						
事業の概要	◆目的 経済的に修学困難な青少年の修学機会の確保並びに有用な人材育成のための支援。 ・基金総額 241,534千円 ・事業費（貸与額） 18,645千円 ・事業費（償還額） 12,617千円																					
実績	◆令和6年度貸与人数及び貸与額（カッコ内は令和6年度新規採用者） <table border="1"> <thead> <tr> <th>基金区分</th> <th>貸与人数</th> <th>貸与額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>人材育成基金</td> <td>13名（4名）</td> <td>6,150,000円</td> </tr> <tr> <td>高坂奨学基金</td> <td>13名（4名）</td> <td>4,395,000円</td> </tr> <tr> <td>岩井堅三奨学基金</td> <td>0名（0名）</td> <td>0円</td> </tr> <tr> <td>佐藤義典奨学基金</td> <td>13名（5名）</td> <td>7,920,000円</td> </tr> <tr> <td>合 計</td> <td>39名（13名）</td> <td>18,465,000円</td> </tr> </tbody> </table>				基金区分	貸与人数	貸与額	人材育成基金	13名（4名）	6,150,000円	高坂奨学基金	13名（4名）	4,395,000円	岩井堅三奨学基金	0名（0名）	0円	佐藤義典奨学基金	13名（5名）	7,920,000円	合 計	39名（13名）	18,465,000円
基金区分	貸与人数	貸与額																				
人材育成基金	13名（4名）	6,150,000円																				
高坂奨学基金	13名（4名）	4,395,000円																				
岩井堅三奨学基金	0名（0名）	0円																				
佐藤義典奨学基金	13名（5名）	7,920,000円																				
合 計	39名（13名）	18,465,000円																				
成果と課題	◆成果 ・経済的理由により修学困難な青少年の修学機会の確保につながっている。 ◆課題 ・固定した滞納者がおり、経済的な理由から継続的な奨学金返済が困難となっている。																					
事業の方向性	継続	☐	拡充																			
	改善		縮小																			

〔オ〕 幼児教育無償化事業				
事業の概要	◆目的 子ども・子育て支援新制度未移行の私立幼稚園に幼児を就園させている保護者の経済的負担の軽減を図るため保育料を無料とする（月額上限25,700円）。 ◆事業費 実績なし			
実績	◆事業費 実績なし			
成果と	◆成果			

課題	・実績なし ◆課題 ・特になし			
事業の方向性	継続 改善	○	拡充 縮小	平成２７年度より町内私立幼稚園が子ども・子育て支援新制度に移行し、本事業の対象外となったため、平成２７年度から令和６年度に至るまで実績はない。 令和元年１０月から幼児教育無償化となり、新制度未移行の幼稚園は２５，７００円を上限として無償化の対象となっているため、町外私立幼稚園（新制度未移行）に幼児を就園させる保護者がある場合は随時対応する。

〔カ〕 第三子以降子育て支援事業				
事業の概要	◆目的 第三子以降の児童を養育する者に子育てサポート祝金を支給することにより、町の次代を担う児童生徒の健全な育成を支援し、児童福祉の推進を図る。 ◆事業費 1, 705千円（財源 一般1, 705千円）			
実 績	◆支給実績 (1) 祝金種類 小・中学校生活応援支援金、高等学校教材費支援金 (2) 支給状況 小学校（単価12, 500円）44名 550, 000円 中学校（単価22, 500円）30名 675, 000円 高 校（単価30, 000円）16名 480, 000円			
成果と課題	◆成果 ・年間に係る教材費の約半額を支給することにより、多子世帯の経済的負担軽減につながっている。 ◆課題 ・特になし			
事業の方向性	継続改善	拡充	縮小	○ 令和5年6月から町内小中学校の給食費無償化が始まったことにより、町内小中学校に在籍する児童生徒については給食費分を除いた金額を支給することとなった（令和5年度分～）。令和6年度からは、町内・町外問わず、給食費を除いた金額を支給することとなった。 次年度からは新規事業を実施予定のため、本事業（小・中学校応援支援金、高等学校教材費支援）は廃止する方向である。

〔キ〕 学び応援！入学祝い金支給事業										
事業の概要	◆目的 来年度、小学校・中学校に入学する児童生徒並びに高校等への進学・就職など新生活をスタートさせる者の保護者に対し、１人当たり１０万円の「入学祝い金」を支給することにより、新入学等に係る費用に対する経済的負担の軽減を図る。 ◆事業費 １４，３１３千円（財源 一般１４，３１３千円）									
実 績	◆支給実績 <table><tr><td>（１）小学校</td><td>３６名</td><td>３，３３２，９４０円</td></tr><tr><td>（２）中学校</td><td>５８名</td><td>４，９３０，０００円</td></tr><tr><td>（３）高等学校等</td><td>６５名</td><td>６，０５０，０００円</td></tr></table> ※〔イ〕〔カ〕を受給している世帯には差額分を支給	（１）小学校	３６名	３，３３２，９４０円	（２）中学校	５８名	４，９３０，０００円	（３）高等学校等	６５名	６，０５０，０００円
（１）小学校	３６名	３，３３２，９４０円								
（２）中学校	５８名	４，９３０，０００円								
（３）高等学校等	６５名	６，０５０，０００円								

成果と課題	◆成果 - 令和6年度12月補正予算対応での新規実施事業であったが、年度内に全対象者からの申請が完了している。新入学等に係る費用負担の軽減につながる事業であることから、関心の高さがうかがえるものとなっている。 ◆課題 - 特になし			
事業の方向性	継続 改善	☐	拡充 縮小	

(3) 教育活動支援のための補助事業の充実

〔ク〕 全国大会等児童生徒派遣費補助事業				
事業の概要	◆目的 体育活動及び文化活動の振興を通して、児童生徒の健全な育成を図ることを目的とし、学校教育活動における大会等へ参加する場合で、全国大会等に出場するための経費について補助金を交付する。 ◆事業費 1,068千円（財源 一般1,068千円）			
実績	◆補助金交付状況 - 第51回東北地区空手道選手権大会（三戸小） 11,852円 - 第38回わんぱく相撲全国大会（三戸小） 46,275円 - 令和6年度JOCジュニアオリンピックカップ第37回全日本小学生相撲優勝大会東北ブロック予選会兼第43回東北学童相撲大会（三戸小） 181,250円 - 第5回わんぱく相撲女子全国大会（三戸小） 82,125円 - 令和6年度JOCジュニアオリンピックカップ第37回全日本小学生相撲優勝大会（三戸小） 60,595円 - 第8回東北小学校バンドフェスティバル（三戸小） 686,258円			
成果と課題	◆成果 - 大会へ参加することで、児童生徒の競技力向上や健全な育成につながるとともに、家庭の経済的な負担を軽減することができた。 ◆課題 - 特になし。			
事業の方向性	継続 改善	☐	拡充 縮小	

〔ケ〕 中体連等派遣費補助事業				
事業の概要	◆目的 体育活動及び文化活動の振興を通して、生徒の健全な育成を図ることを目的とし、学校教育活動における大会等へ参加するための経費について補助金を交付する。 ◆事業費 3,922千円（財源 一般3,922千円）			
実績	◆補助金交付状況 - 三戸中学校 3,864千円 - スポーツ団体 58千円			
成果と課題	◆成果 各種大会へ参加することで、競技力向上や生徒の健全な育成につながるとともに、家庭の経済的な負担を軽減することができた。 ◆課題			

			・特になし。
事業の 方向性	継続 改善	拡大 ○ 縮小	クラブチーム等から中体連に参加する生徒も補助金の対象となるよう要綱等の改正を行う。

〔コ〕 教育振興協議会支援事業			
事業の 概要	◆目的 教育委員会、学校、地域の連携により、学校教育・社会教育の振興を図る。 ◆事業費 565,511円（財源 一般350,000円 会費等215,511円）		
実 績	◆教職員研修等に対する助成（総額223,836円） （1）校内外研修補助費 ・三戸小、斗川小、三戸中 （2）教育研究班事業助成 ・養護教諭研修会、授業交流会 ◆令和6年度子ども文化作品展の開催 ・開催日 令和6年11月2日～4日 ・場 所 三戸町民体育館 ・内 容 児童生徒の芸術、文化教育振興のため子ども文化作品展を開催。 ◆令和6年度町長と語る会の開催 ・開催日 令和7年2月3日 ・場 所 三戸小・中学校 ・内 容 三戸小学校6年児童が町長と三戸町について語り合う会を開催。 ◆第61号「三戸の教育」の発行（印刷に係る消耗品費等111,353円） ◆幼保職員研修等に対する助成（総額60,000円） 幼保職員研修事業助成 ・三戸保育園、ミューズ保育園、いずみ幼稚園 ◆幼小連携研修会の開催 ・開催日 令和7年3月18日 ・場 所 三戸町役場 ・内 容 講話「幼保小連携事業の県内の取組事例と事業の紹介について」 講師 青森県教育庁学校教育課 あおもり幼児教育センター 指導主事 工藤 治 氏 幼児教育アドバイザー 田頭 初美 氏		
成果と 課題	◆成果 ・教職員研修、幼保職員研修では、各職員がそれぞれ学校運営、教育指導、保育指導に適した研修を行い、職員の資質向上、現場における指導力の向上につながっている。 ・子ども文化作品展においては、今年度から町内小中学校の全児童生徒の作品を出展する形式に改めた。作品数923点、来場者1,074人となり、来場者数の増並びに児童・生徒の文化的資質の向上が図られた。 ・町長と語る会においては、児童・生徒が町長と語り合うことで、ふるさとに対する意識や豊かなふるさとを創造していこうとする意欲の向上が図られた。 ・幼小連携については、これまでの交流会から研修会の形式に改め、次年度以降の連携強化のため実施する事業についての情報の共有化が図られた。 ◆課題 ・学校数、生徒数の減少により、各行事等の協力体制及び会費の減が課題となっている。		
事業の 方向性	継続 改善	拡大 ○ 縮小	

(4) その他教育行政の推進

〔サ〕 スクールバス等運行事業				
事業の概要	◆目的 遠距離児童生徒の通学手段確保を目的とし、通学バス・タクシーを運行する。 ◆事業費 42,484千円（財源 国庫258千円・一般42,226千円）			
実績	◆通学バス運行事業（小57名、中53名） (1) 路線 ①三戸小・三戸中目時地区（三戸中は登校のみ）12名 ②三戸小貝守地区 36名（うち松原15名） ③三戸小蛇沼地区 5名 ④斗川小大舌地区 9名 ⑤三戸中貝守地区 22名（うち松原7名） ⑥三戸中斗内地区 21名 ⑦三戸中蛇沼地区 5名 (2) 運行回数 三戸小学校は年間233日、登校1回・下校2回（低学年・高学年） 斗川小学校は年間203日、登校1回・下校2回（低学年・高学年） 三戸中学校は年間235日、登校1回・下校1回 ◆通学タクシー運行事業（小3名、中13名） (1) 路線 ①三戸小・三戸中蛇沼地区 8名（小3名） ②三戸中目時地区（下校のみ） 5名 ③三戸中大舌地区 3名 (2) 運行回数 通学バスに同じ			
成果と課題	◆成果 ・事故なく、通学バス・タクシーが運行されており、遠距離通学児童生徒の通学の便宜と安全が確保されている。 ◆課題 ・今後も効率的かつ安全な運行方法について検討を継続していく。			
事業の方向性	継続 改善	☒	拡充 縮小	令和7年度は児童・生徒のバス待機時間の短縮のために、運行時刻の変更を行った。

〔シ〕 部活動バス・部活動支援バス運行事業				
事業の概要	◆目的 部活動における遠征時や学校行事等における移動を部活動バス、部活動支援バスで行うことにより、保護者の負担軽減を図る。 ◆事業費 部活動バス運行事業 1,243千円（財源 一般1,243千円） 部活動支援バス事業 1,962千円（財源 一般1,962千円）			
実績	◆運行回数及び乗車人数 (1) 部活動バス 85回 延べ1272人 (2) 部活動支援バス 18回 延べ601人			
成果と課題	◆成果 ・児童生徒の部活動や校外活動時の移動手段として有効活用され、児童生徒や保護者の負担軽減につながっている。 ◆課題 ・今後も効率的かつ安全な運行方法について検討し、児童生徒や保護者の負担軽減を図っていく。			
事業の方向性	継続 改善	☐	拡充 縮小	

〔ス〕 児童・生徒・教職員健康診断及び就学時健診																																									
事業の概要	◆目的 学校保健安全法に基づき、児童・生徒及び教職員の健康診断の実施と事後措置を行い、早期発見・早期治療を勧め、健康管理と健康保持促進を図り、学校教育の円滑な実施を図る。																																								
	◆事業費 2, 8 3 5 千円（財源 一般2, 8 3 5 千円）																																								
実 績	◆概要																																								
	<table><tr><td rowspan="8">(1) 児童生徒健診</td><td>就学時健診</td><td>就学前児童</td><td>3 5 名</td></tr><tr><td>心電図検査</td><td>1 年・4 年・7 年</td><td>1 4 6 名</td></tr><tr><td>耳鼻科健診</td><td>全児童生徒</td><td>4 8 4 名</td></tr><tr><td>眼科健診</td><td>全児童生徒</td><td>4 8 4 名</td></tr><tr><td>歯科健診</td><td>全児童生徒</td><td>4 8 4 名</td></tr><tr><td>内科健診</td><td>全児童生徒</td><td>4 8 4 名</td></tr><tr><td>尿検査</td><td>全児童生徒</td><td>4 8 1 名</td></tr><tr><td>貧血検査</td><td>5 年・8 年</td><td>1 0 7 名</td></tr><tr><td rowspan="4">(2) 教職員健診</td><td>定期健診</td><td>3 6 名</td><td></td></tr><tr><td>胃ガン検診</td><td>4 0 歳以上希望者</td><td>1 5 名</td></tr><tr><td>大腸ガン検診</td><td>4 0 歳以上希望者</td><td>1 7 名</td></tr><tr><td>ストレスチェック</td><td>全教職員</td><td>6 0 名</td></tr></table>				(1) 児童生徒健診	就学時健診	就学前児童	3 5 名	心電図検査	1 年・4 年・7 年	1 4 6 名	耳鼻科健診	全児童生徒	4 8 4 名	眼科健診	全児童生徒	4 8 4 名	歯科健診	全児童生徒	4 8 4 名	内科健診	全児童生徒	4 8 4 名	尿検査	全児童生徒	4 8 1 名	貧血検査	5 年・8 年	1 0 7 名	(2) 教職員健診	定期健診	3 6 名		胃ガン検診	4 0 歳以上希望者	1 5 名	大腸ガン検診	4 0 歳以上希望者	1 7 名	ストレスチェック	全教職員
(1) 児童生徒健診	就学時健診	就学前児童	3 5 名																																						
	心電図検査	1 年・4 年・7 年	1 4 6 名																																						
	耳鼻科健診	全児童生徒	4 8 4 名																																						
	眼科健診	全児童生徒	4 8 4 名																																						
	歯科健診	全児童生徒	4 8 4 名																																						
	内科健診	全児童生徒	4 8 4 名																																						
	尿検査	全児童生徒	4 8 1 名																																						
	貧血検査	5 年・8 年	1 0 7 名																																						
(2) 教職員健診	定期健診	3 6 名																																							
	胃ガン検診	4 0 歳以上希望者	1 5 名																																						
	大腸ガン検診	4 0 歳以上希望者	1 7 名																																						
	ストレスチェック	全教職員	6 0 名																																						
成果と課題	◆成果 ・学校及び医療機関と綿密な連絡調整の下、全ての健診において円滑に実施することができた。																																								
	◆課題 ・耳鼻科健診は医師の都合上1回のみの実施であり、全学校が1校に移動、集合して行うことから、行事調整や授業時数確保の面で学校側に大きな負担を強いている。																																								
事業の方向性	継続	○	拡充																																						
	改善		縮小																																						

〔セ〕 コミュニティスクール運営事業				
事業の概要	◆目的 学校と地域がつながることで、児童生徒をとりまく課題を円滑に解決するとともに、「地域とともにある学校」を目指し、より良い学校運営を推進する。 ◆事業費 162千円（財源 一般162千円）			
実績	◆小中一貫三戸学園コミュニティ・スクール委員会 委員 18名 ◆開催日数 父母と教師の会、PTA、町内会、観光協会、商工会、地域おこし協力隊員等を以て組織する「小中一貫三戸学園コミュニティ・スクール委員会」を3回開催したもの。			
成果と課題	◆成果 ・三戸学園や各校で抱える課題について、コミュニティ・スクール委員会や地域住民の協力を得た上で解決できるよう、グループや全体での討議を通じて方向性を見い出すことができた。 ・三戸小・中と斗川小の関係者が一堂に会し、学園の運営方針について理解を深めるとともに、小中一貫校としての学校評価に関する意見を集約することができた。 ◆課題			

	・三戸学園や各校で抱える課題の解決に向けて、コミュニティ・スクール委員会が積極的に関わり、実現かつ持続的に協力できるよう、会議の持ち方や討議の内容、地域住民への情報発信の方法などを検討していく必要がある。			
事業の方向性	継続 改善	○	拡充 縮小	

〔ソ〕 部活動地域移行支援事業				
事業の概要	◆目的 少子化が進む中で、将来にわたって子どもたちがスポーツに親しめる環境を整備することを目的に、休日の部活動を地域に移行していく。 ◆事業費 245千円（財源 県補助177千円・一般68千円）			
実績	◆謝金 柔道ジュニアクラブ：159,685円、卓球ジュニアクラブ：23,980円、サッカージュニアクラブ：61,040円 ◆実施日数 柔道ジュニアクラブ：27日、卓球ジュニアクラブ：11日、サッカージュニアクラブ：19日			
成果と課題	◆成果 ・専門性の高い指導者から技術練習等する機会を多く設けることができた。 ・教職員の休日の負担を軽減することができた。 ・生徒のやりたいスポーツができる環境を整備することができた。 ・小中一貫教育の中で、小学生もジュニアクラブに参加することで、中学生と一緒に活動することができた。 ◆課題 ・部活動の受け皿となるジュニアクラブの種目を増やしていく必要がある。			
事業の方向性	継続 改善	○	拡充 縮小	

〔タ〕 学習習慣形成事業（学習コーチ・探究コーチ事業）				
事業の概要	◆目的 学習コーチでは、予習・復習のやり方、記憶方法、問題集の使い方といった「勉強のやり方」や作文の書き方について講演会を実施し、児童生徒が効率的な学習方法を身につけ学習の習慣化を目指す。 探究コーチでは、日常の疑問から自ら問いを立て調べる探究学習を通じて「勉強する意味」について講演会を実施し、児童生徒の興味関心を各教科の意欲的な学習につなげることを目指す。 ◆事業費 1,300千円（財源 一般1,300千円）			
実績	◆講演会等の実施 (1) 学習コーチ講演会（講師：(株)プラスティ教育研究所 代表取締役 清水章弘氏） ア 実施日 令和6年10月25日（金） 場 所 小中一貫三戸学園三戸小・中学校「学習センター」 対 象 小中一貫三戸学園三戸中学校7年生（61名） 内 容 学習コーチ講演会「勉強のやり方と作文の書き方」 予習・授業・復習・テストのサイクルに基づいた具体的な勉強方法や効果的な記憶方法、意見・理由・経験・結論で自分の考えをまとめる作文の書き方について講演を行った。			

イ	実施日	令和6年10月25日（金）
	場 所	小中一貫三戸学園三戸小・中学校「学習センター」
	対 象	小中一貫三戸学園三戸中学校8年生（67名）
	内 容	学習コーチ講演会「勉強のやり方と作文の書き方」 予習・授業・復習・テストのサイクルに基づいた具体的な勉強方法や効果的な記憶方法、意見・理由・経験・結論で自分の考えをまとめる作文の書き方について講演を行った。
ウ	実施日	令和6年11月8日（金）
	場 所	小中一貫三戸学園三戸小・中学校「学習センター」
	対 象	小中一貫三戸学園三戸小学校・斗川小学校6年生（62名）
	内 容	7年生進級前ガイダンス「中学生からの勉強のやり方」 予習・授業・復習・テストのサイクルに基づいた具体的な勉強方法や問題集の使い方についてガイダンスを行った。
エ	実施日	令和6年11月8日（金）
	場 所	小中一貫三戸学園三戸小・中学校「学習センター」
	対 象	小中一貫三戸学園三戸中学校9年生（64名）
	内 容	9年生受検前ガイダンス「勉強のやり方と悩みごとへのアドバイス」 予習・授業・復習・テストのサイクルに基づいた具体的な勉強方法や効果的な学習方法についてガイダンスを行うとともに、受検勉強をする中での悩みごとへのアドバイスを行った。
（2）探究コーチ講演会（講師：㈱プラスティ教育研究所 安原和貴氏）		
ア	実施日	令和6年11月11日（月）
	場 所	小中一貫三戸学園三戸小・中学校「学習センター」
	対 象	小中一貫三戸学園三戸小学校・斗川小学校6年生（62名）
	内 容	探究コーチ講演会 色々なニュースや最新技術など身近な情報を活用した探究学習から「勉強する意味」を見い出し、勉強に対する興味関心を持たせる講演を行った。 また、新聞のコラム記事を課題文として、自分の考えを200文字で表現できるよう探究学習を行った。
イ	実施日	令和6年11月11日（月）
	場 所	小中一貫三戸学園三戸小・中学校「学習センター」
	対 象	小中一貫三戸学園三戸中学校9年生（64名）
	内 容	探究コーチ講演会 色々なニュースや最新技術など身近な情報を活用した探究学習から「勉強する意味」を見い出し、勉強に対する興味関心を持たせる講演を行った。 また、新聞のコラム記事を課題文として、自分の考えを200文字で表現できるよう探究学習を行った。
ウ	実施日	令和6年12月5日（木）
	場 所	小中一貫三戸学園三戸小・中学校「学習センター」（オンライン）
	対 象	小中一貫三戸学園三戸小学校5年生（47名）
	内 容	探究コーチ講演会 色々なニュースや最新技術など身近な情報を活用した探究学習から「勉強する意味」を見い出し、勉強に対する興味関心を持たせる講演を行った。 また、新聞のコラム記事を課題文として、自分の考えを200文字で表現できるよう探究学習を行った。
エ	実施日	令和6年12月5日（木）

	<table><tr><td>場 所</td><td colspan="3">小中一貫三戸学園三戸小・中学校「学習センター」(オンライン)</td></tr><tr><td>対 象</td><td colspan="3">小中一貫三戸学園三戸中学校7年生(62名)</td></tr><tr><td>内 容</td><td colspan="3">探究コーチ講演会 色々なニュースや最新技術など身近な情報を活用した探究学習から「勉強する意味」を見い出し、勉強に対する興味関心を持たせる講演を行った。 また、新聞のコラム記事を課題文として、自分の考えを200文字で表現できるよう探究学習を行った。</td></tr><tr><td>オ 実施日</td><td colspan="3">令和6年12月5日(木)</td></tr><tr><td>場 所</td><td colspan="3">小中一貫三戸学園三戸小・中学校「学習センター」(オンライン)</td></tr><tr><td>対 象</td><td colspan="3">小中一貫三戸学園三戸中学校8年生(67名)</td></tr><tr><td>内 容</td><td colspan="3">探究コーチ講演会 色々なニュースや最新技術など身近な情報を活用した探究学習から「勉強する意味」を見い出し、勉強に対する興味関心を持たせる講演を行った。 また、新聞のコラム記事を課題文として、自分の考えを200文字で表現できるよう探究学習を行った。</td></tr></table>				場 所	小中一貫三戸学園三戸小・中学校「学習センター」(オンライン)			対 象	小中一貫三戸学園三戸中学校7年生(62名)			内 容	探究コーチ講演会 色々なニュースや最新技術など身近な情報を活用した探究学習から「勉強する意味」を見い出し、勉強に対する興味関心を持たせる講演を行った。 また、新聞のコラム記事を課題文として、自分の考えを200文字で表現できるよう探究学習を行った。			オ 実施日	令和6年12月5日(木)			場 所	小中一貫三戸学園三戸小・中学校「学習センター」(オンライン)			対 象	小中一貫三戸学園三戸中学校8年生(67名)			内 容	探究コーチ講演会 色々なニュースや最新技術など身近な情報を活用した探究学習から「勉強する意味」を見い出し、勉強に対する興味関心を持たせる講演を行った。 また、新聞のコラム記事を課題文として、自分の考えを200文字で表現できるよう探究学習を行った。		
場 所	小中一貫三戸学園三戸小・中学校「学習センター」(オンライン)																															
対 象	小中一貫三戸学園三戸中学校7年生(62名)																															
内 容	探究コーチ講演会 色々なニュースや最新技術など身近な情報を活用した探究学習から「勉強する意味」を見い出し、勉強に対する興味関心を持たせる講演を行った。 また、新聞のコラム記事を課題文として、自分の考えを200文字で表現できるよう探究学習を行った。																															
オ 実施日	令和6年12月5日(木)																															
場 所	小中一貫三戸学園三戸小・中学校「学習センター」(オンライン)																															
対 象	小中一貫三戸学園三戸中学校8年生(67名)																															
内 容	探究コーチ講演会 色々なニュースや最新技術など身近な情報を活用した探究学習から「勉強する意味」を見い出し、勉強に対する興味関心を持たせる講演を行った。 また、新聞のコラム記事を課題文として、自分の考えを200文字で表現できるよう探究学習を行った。																															
成果と課題	<table><tr><td colspan="4">◆成果</td></tr><tr><td colspan="4">・児童生徒が学習習慣を意識し、自ら主体的に学ぶ姿勢を身につけるための動機付けができた。</td></tr><tr><td colspan="4">・中学生進級前の児童や、受験を控えた生徒に対して、勉強に対する不安を解消し、今、何をどのようにするべきかを示すことができた。</td></tr><tr><td colspan="4">・7年生進級前ガイダンスの実施により、学習や生活の大きな変化による「中1ギャップ」を生じやすい6年生に対し、進級前の不安や心理的段差を緩やかにし、進級への期待を増すことができた。</td></tr><tr><td colspan="4">・色々なニュースや最新技術など身近な情報を活用した探究学習から「勉強する意味」を見出し、児童生徒の勉強に対する興味関心を持たせることができた。</td></tr><tr><td colspan="4">◆課題</td></tr><tr><td colspan="4">・特になし</td></tr></table>				◆成果				・児童生徒が学習習慣を意識し、自ら主体的に学ぶ姿勢を身につけるための動機付けができた。				・中学生進級前の児童や、受験を控えた生徒に対して、勉強に対する不安を解消し、今、何をどのようにするべきかを示すことができた。				・7年生進級前ガイダンスの実施により、学習や生活の大きな変化による「中1ギャップ」を生じやすい6年生に対し、進級前の不安や心理的段差を緩やかにし、進級への期待を増すことができた。				・色々なニュースや最新技術など身近な情報を活用した探究学習から「勉強する意味」を見出し、児童生徒の勉強に対する興味関心を持たせることができた。				◆課題				・特になし			
◆成果																																
・児童生徒が学習習慣を意識し、自ら主体的に学ぶ姿勢を身につけるための動機付けができた。																																
・中学生進級前の児童や、受験を控えた生徒に対して、勉強に対する不安を解消し、今、何をどのようにするべきかを示すことができた。																																
・7年生進級前ガイダンスの実施により、学習や生活の大きな変化による「中1ギャップ」を生じやすい6年生に対し、進級前の不安や心理的段差を緩やかにし、進級への期待を増すことができた。																																
・色々なニュースや最新技術など身近な情報を活用した探究学習から「勉強する意味」を見出し、児童生徒の勉強に対する興味関心を持たせることができた。																																
◆課題																																
・特になし																																
事業の方向性	継続改善	☐	拡充																													
			縮小																													

〔チ〕 三戸町立学校給食共同調理場運営事業	
事業の概要	◆目的 学校給食が児童及び生徒の心身の健全な発達に資するものであり、かつ、児童及び生徒の食に関する正しい理解と適切な判断力を養う上で重要な役割を果たすものであることにかんがみ、学校給食及び学校給食を活用した食に関する指導を行い、学校給食の普及充実及び学校における食育の推進を図る。 ◆事業費 特別会計(給食材料費) 39,117千円(財源 国県交付金及び町) 一般会計(共同調理場運営費) 111,490千円(財源 国県交付金及び町)
実 績	◆概要 児童生徒及び教職員等664名の給食対象者に対し、200日間、児童54,770食、生徒46,845食、教職員等15,575食、合計117,190食の完全給食を提供した。
成果と課題	◆成果 ・食の出前授業や教育現場の先生方による給食指導を行っている。 ・地元産品活用の取り組みにより、児童が給食を完食するなど、給食に対する感謝の心

	が育まれている。 ◆課題 ・平成13年の調理場の建設から23年以上が経過し、施設・設備や調理機器の経年劣化による故障が増えている。修繕では対応が難しいものもあり、計画的な機器更新が必要である。 ・海藻類、根菜類を使用した料理の残食量が多いため、食の指導等を通じて残食量軽減に取り組む必要がある。 ・小麦粉や大豆などの主原料や原油価格の上昇、ウクライナ情勢や円安の進行などの影響により、食品及び輸送のコストが上昇している。これにより、従前の給食費による給食の調理提供が難しくなり、町から4,514千円の補助が必要となった。			
事業の方向性	継続 改善	☐	拡充 縮小	

〔ツ〕 小中学校給食無償化事業				
事業の概要	◆目的 物価高騰による保護者負担の軽減を図るとともに、保護者が安心して育てられる教育環境を整備する。 ◆事業費 学校給食無償化分繰入金 21,813千円（財源 国県交付金及び町）			
実績	◆概要 児童生徒413名の給食対象者に対し、児童47,754食、生徒28,317食、合計76,071食を無償化した。			
成果と課題	◆成果 ・物価が高騰している中、給食費が軽減されることで、子育て世帯の家計に大きな支援になっている。 ・給食費を集金しないことで、教職員の業務の負担軽減につながっている。 ◆課題 ・無償化したことで、欠食の管理が甘くなっているとの懸念がある。			
事業の方向性	継続 改善	☐	拡充 縮小	

〔テ〕 三戸高等学校との連携推進（魅力化推進事業補助金）				
事業の概要	◆目的 三戸町内の小中学校と連携協定を締結した三戸高校で、郡内唯一の普通高校としての魅力化を町が支援し、小中高12年間の接続を強みとした連携を推進するとともに、PTAが行う生徒にとって魅力ある学校づくりに資する各種事業に対し、補助金を交付する。 ◆事業費 3,500千円（財源 一般3,500千円）			
実績	◆補助金の交付 【検定料等支援事業】761,900円 ビジネス文書実務検定：3級36名、2級35名、1級14名 情報処理検定：3級14名、2級13名、1級12名 ビジネス計算実務検定：3級30名、2級17名、1級25名 簿記実務検定：3級16名、2級6名、1級5名 家庭科技術検定（食物調理）：4級22名、3級11名 漢字検定：4級1名、3級17名、準2級7名、2級3名			

	英語検定：３級１２名、準２級１０名、２級９名 ドローン操縦技能講座：４名 介護員養成講習：１名 防災士養成講座：１名 延べ人数３２１名 (受検者数/全校生徒) R2:344/116・R3:277/114・R4:409/88・R5:357/85・R6:321/80 【遠距離通学者支援事業】 1,446,750円 (町外) 南部中学校区：１０名、名川中学校区：２名、福地中学校区：３名、田子中学校区：１８名（うち４名上郷地区）、三条中学校区：４名、その他八戸市中学校区：１名、倉石中学校区：１名、金田一中学校区：１名 (町内) 旧目時小学校区：１名、旧大舌小学校区：１名 対象者数４２名 【進路達成支援事業】 660,418円 プラスティーオンライン学習室利用：９名 プラスティー小論文対策講座受講：５名 【部活動振興事業】 580,492円 春季大会及び高総体並びに新人戦生徒宿泊費、高総体バス借上料補助 【その他】 50,440円 商品開発経費			
成果と課題	◆成果 ・資格取得支援について、意欲的に挑戦する生徒を支援することができた。 ・進路達成に向けた支援について、高校や生徒が必要としている内容をヒアリングすることで、高校や生徒のニーズに合った支援を行うことができた。 ◆課題 ・生徒が希望する支援策についてヒアリングする必要がある。 ・町内外の中学生に対して、支援内容の周知と学校の魅力を発信する必要がある。 ・資格取得支援を将来的に役立つような資格も含める必要がある。			
事業の方向性	継続 改善	○ 改善	拡充 縮小	資格取得や通学支援、進路達成支援や部活動振興など、生徒にとって魅力ある支援策を検討していく。

〔ト〕 三戸高等学校との連携推進（高校昼食提供事業）	
事業の概要	◆目的 三戸高校の入学者増を促進する魅力化事業の一環として、保護者の負担を軽減し、同時に安価で栄養バランスのとれた昼食を提供する。 ◆事業費 4, 408千円（財源 国県交付金及び町負担の給食費4, 200円）
実績	◆概要 生徒75人及び教職員5人の昼食申込者に対し、172日間、生徒12, 224食、教職員等605食、合計12, 829食の昼食を提供した。
成果と課題	◆成果 ・保護者の負担を軽減し、安価で栄養バランスのとれた昼食を提供した。 ・昼食を無償化することで、保護者の経済的負担を軽減した。 ・全生徒80人のうち75人と大部分が事業効果を享受している。 ◆課題 ・無償化の期限を今年度限りとしたため、翌年の新入生へ無償提供であることを積極的

				にPRできない。 ・無償提供により金銭意識が希薄化し、残食が多いのではないかと懸念がある。
事業の 方向性	継続 改善	○ 改善	拡充 縮小	

〔ナ〕 三戸高等学校との連携推進（三戸高校魅力化コーディネーター設置事業）				
事業の 概要	◆目的 三戸高校において、三戸高校特有の魅力的な学びを創出し、多くの生徒が全国から集まるような教育活動へ支援することを目的に、地域おこし協力隊員を1名設置する。 ◆事業費 4,974千円（財源 一般4,974千円）			
実 績	◆概要 地域みらい留学における全国の中学生に対する三戸高校の魅力発信や、全国募集により入学した生徒5名の生活支援を行った。また、総合的な探究の時間における授業支援や令和5年度に新設したクリエイティ部の活動支援、協力隊新聞やSNS等による広報活動を行った。このほか、生徒に対する昼食提供の支援を行った。			
成果と 課題	◆成果 ・全国の中学生に対して、高校や町の魅力を十分に発信することができた。 ・授業やクリエイティ部の活動を支援し、町のPRポスターとPR動画（CM）を制作することができた。 ・協力隊新聞を毎月発行し、活動状況や高校の魅力を町民に周知できた。 ◆課題 ・現在の活動拠点は教育委員会事務局であるが、三戸高校内に活動拠点を置くことができるよう高校と協議が必要である。			
事業の 方向性	継続 改善	○ 改善	拡充 縮小	

2. 学校教育指導の重点

(1) 小中一貫教育の推進

〔ア〕 三戸町学校教育研究大会				
事業の概要	◆目的 町の教育方針や小中一貫教育に関する概要を示すことで、教職員が一丸となって小中一貫教育を推進する機運を醸成する。 ◆事業費 0千円			
実績	◆概要 (1) 日程：令和6年4月19日（金） (2) 場所：小中一貫三戸学園三戸小・中学校「第2体育館」 (3) 対象：町内全教職員 (4) 内容：①三戸町の教育基本方針と小中一貫教育について（慶長教育長） ②小中一貫三戸学園における英語科について （弘前大学教育学部准教授 佐藤剛氏） ③講演会『「子どもが主語」の学校へようこそ！』 （青森県教育改革有識者会議副議長 森万喜子氏） ④令和6年度小中一貫教育推進体制について（小林教育施策推進監）			
成果と課題	◆成果 ・三戸町の教育方針や小中一貫教育で目指す子ども像について、小中一貫三戸学園を構成する教職員が一堂に会する場で示し、教育体制の強化を図ることができた。 ・講演会では、青森県教育改革有識者会議副議長の森万喜子氏を講師に迎え、『「子どもが主語」の学校へようこそ！』と題してご講演をいただき、子どもが主体的に学び育つ学校の作り方について学んだ。 ◆課題 ・小中一貫教育導入時から教職員が大幅に入れ替わっていることを踏まえ、三戸町の小中一貫教育について教職員の理解を深め、義務教育9年間を通して、系統的・継続的な一貫性のある小中一貫教育を展開するための学校教育研究大会とする必要がある。			
事業の方向性	継続 改善	○	拡充 縮小	町内の全教職員が一堂に会することから、教育委員会の重点施策や教育活動を理解する有効な機会と捉え、内容の充実を図りながら継続する。

〔イ〕 小中一貫教育推進事業				
事業の概要	◆目的 義務教育の9年間を一貫して捉える小中一貫教育を一層推進していくため、具体的手法の研究や制度運用の評価改善を行いながら、当町特有の教育制度の推進を図る。 ◆事業費 56千円（財源 一般56千円）			
実績	◆概要 ・転入教職員に対する小中一貫教育説明会の開催 三戸町の小中一貫教育について、転入教職員が一堂に会する場で教育委員会から説明を行い、共通理解を深めた。 (1) 日程：令和6年4月9日（火） (2) 場所：小中一貫三戸学園三戸小・中学校「学習センター」 (3) 対象：町内転入教職員 (4) 内容：三戸町小中一貫教育に関する説明 ・小中一貫教育専門委員会・プロジェクトチームの開催			

専門委員会は各教科部会、教育支援部会、保健部会、事務部会の11の部会で構成され、各教科部会では学力の向上対策や授業の進め方、授業におけるICT機器の活用、パワーアップ学習の活用、小中相互の乗り入れ授業、TT指導の推進などの事項について協議を行った。また、プロジェクトチームは英語科と立志科で編成され、英語科では弘前大学との共同研究によりCAN-DOリストを活用した授業やEnglish dayなどについて協議を行い、立志科では年間指導計画と指導例の見直しについて協議を行った。

(1) 日程：第1回 令和6年4月19日(金)

第2回 令和6年8月7日(金)

第3回 令和6年11月27日(水)

(2) 場所：小中一貫三戸学園三戸小・中学校内教室

(3) 対象：町内全教職員

・小中一貫教育研修会の開催

義務教育9年間を通して、系統的・継続的な一貫性のある教育を実践するため、教職員の相互理解を深め、小中一貫教育の深化・充実を図った。

(1) 日程：令和6年8月7日(水)

(2) 場所：小中一貫三戸学園三戸小・中学校「学習センター」

(3) 対象：町内全教職員

(4) 内容：①講演会「小中一貫教育に期待すること」

(前東京都品川区教育委員会事務局教育アドバイザー 藤森克彦氏)

②プロジェクトチーム報告について(小林教育施策推進監)

・小中一貫教育授業交流発表会の開催

義務教育9年間を一貫として捉えた教育を実践するため、参加教職員が具体的な指導方法を確認し、指導の充実を図った。

(1) 日程：令和6年11月27日(水)

(2) 場所：小中一貫三戸学園三戸小・中学校

(3) 対象：町内全教職員

(4) 内容：①公開授業参観(全学級の授業公開)

②第8回日本義務教育学会研究大会参加報告(斗川小学校 村林教頭)

・小中一貫教育実施委員会の開催

令和6年度における小中一貫教育の課題や懸案事項について、解決に向けた協議を行い、小中一貫教育推進委員会に対して提案する具体的方策を決定した。

(1) 日程：令和7年3月3日(月)

(2) 場所：小中一貫三戸学園三戸小・中学校「第二会議室」

(3) 委員：教頭、教務主任、三戸地方教育研究所指導主事、教育委員会

(4) 内容：小中相互の乗り入れ授業・交流授業、パワーアップ学習、立志科、英語科、児童生徒の指導、三戸高校と連携した取組等

・小中一貫教育推進委員会の開催

小中一貫教育を推進するための基本方針に関することやその他の事項について検討した。

(1) 日程：令和7年3月21日(金)

(2) 場所：三戸町役場4階「大会議室」

(3) 委員：校長、学識経験者、三戸地方教育研究所指導主事

	(4) 内容：小中一貫教育の推進に関する事項等			
成果と課題	◆成果 - 各教科部会を開催することで、横断的な連携を図ることができ、9年間を見通した具体的な方策を検討することができた。 - 社会科部会においては、デジタル副読本の内容について協議を行い、更新することができた。 - 小中一貫教育研修会の講演会では、前東京都品川区教育委員会事務局教育アドバイザーの藤森克彦氏を講師に迎え、『小中一貫教育に期待すること』と題してご講演をいただき、小中一貫教育の難しさや推進のためのポイントについて学ぶとともに、事前に質問した内容についてアドバイスをいただくことができた。 - 授業交流発表会では、小・中学校における英語科や各等部における立志科の授業など、全学級の授業参観を通じて、参加教職員が相互に具体的な指導方法を確認することができた。 - 実施委員会では、小中一貫教育を進める中での課題や懸案事項などの解決に向けた協議を行い、推進委員会に対して提案する具体的方策を決定することができた。 - 推進委員会では、専門委員会やプロジェクトチーム、実施委員会で検討した事項を議論し、令和7年度における三戸町の教育の方向性を示すことができた。 ◆課題 - 専門委員会及びプロジェクトチームを開催する機会確保のため、長期休業中にも継続して開催する必要がある。 - 授業交流発表会は、近年、専門委員会等の協議時間が十分に確保できていなかったことから、公開授業参観後に授業に関する研究協議を行わず、専門委員会等における協議を重点的に実施しているため、今後は授業交流発表会ではなく、専門委員会等を主とした形態で開催する必要がある。			
事業の方向性	継続 改善	○	拡充 縮小	

〔ウ〕 特色ある教育活動推進事業（三戸地方教育研究所）				
事業の概要	◆目的 三戸町・田子町が個々に抱えている教育課題を解決するため、各町が行う特色ある教育活動や教員研修並びに教育推進研究の支援を通し、当該教育課題の解決に資する。 ◆事業費 160千円（三戸町分）			
実績	◆スマホ・ゲーム依存予防講演会 講師 こころの相談室 こじか 小鹿 和男 氏 ◆運動を早く身に付けるためのコーディネーショントレーニング研修会 講師 NP0法人日本コーディネーショントレーニング協会普及員 乗田 俊子 氏 ◆立春式の学年合唱のための指導 講師 元八戸市立第三中学校 校長 野村 律子 氏 ◆いのちのお話 出前講座 講師 一般社団法人青森県助産師会 いのちのお話プロジェクトあかり 今 鶴代 氏			
成果と課題	◆成果 - 二町の各校の特色ある教育活動のために利用することができた。 ◆課題 - 二町の各学校で利用できるように、来年度も引き続き周知徹底する。			
事業の方向性	継続 改善	○	拡充 縮小	

〔エ〕 小中乗り入れ授業実施				
事業の概要	◆目的 三戸町小中一貫教育要領に定める教科の指導にあたり、中学校の教員が5、6年生に対して、専門性を活かした授業を行い、教科への興味や関心を高めるとともに、チームティーチングにより、児童の状況に応じて授業を進める先生と、個別対応する先生と役割分担をし、きめ細かく行き届いた指導を目指す。 ◆事業費 0千円			
実績	◆三戸小中学校においては、学年や教科により下表のとおり実施。			
	学年	教科	週あたり時間数	指導の形態
	5	音楽	1. 5	小学校の教員が授業を進め、中学校の音楽科教員がT2としてサポートする。
		図工	1. 5	ほぼすべての授業で、単元により中学校の美術科教員が専科指導し、指導内容により、学級担任が個別対応する。
		体育	2. 5	ほぼすべての授業で、中学校の保健体育教員が専科指導し、指導内容により、学級担任が個別対応する。
		英語	2 実質1.5	小学校の教員とALTが授業を進め、中学校の英語科教員がT3としてサポートする。
	6	音楽	1. 5	小学校の教員が授業を進め、中学校の音楽科教員がT2としてサポートする。
		図工	1. 5	ほぼすべての授業で、中学校の美術科教員が専科指導し、指導内容により、学級担任が個別対応する。
		算数	5 実質3	小学校の教員が中学校の数学科教員とともに、習熟度別にクラスを分け、少人数指導を行う。
		体育	2. 5	ほぼすべての授業で、中学校の保健体育教員が専科指導し、指導内容により、学級担任が個別対応する。
		英語	2 実質1.5	小学校の教員とALTが授業を進め、中学校の英語科教員がT3としてサポートする。
	◆斗川小学校においては、斗川小の教員から専門的な英語指導を要望された場合、三戸中学校の英語科教員による6年生への授業支援を年7回実施した。(計画では12回)			
成果と課題	◆成果 ・5、6年生にとっては、中学校教員が専門性を活かして授業に参加したことにより、より教科に対する興味や関心が見られた。 ・特に技能教科では、指導内容の連続性が担保されたり、教材選択の工夫がしやすかったりと、効果的な教員の指導や児童生徒の理解につながっている。 ・小学生の段階から中学校教員と交流することでスムーズな進学(進級)につながっている。 ・小中の教員にとっては、相互に指導内容における9年間の系統性を、児童生徒の様子を見ながら指導できた。 ・小中の教員が、授業で接することで児童生徒の情報交換や、学習展開についての協議等が行われることで、協働意識が芽生え、組織的な教育活動の充実につながっている。 ・5、6年生が中学校教員による乗り入れを楽しみにしている。 ・中学校教員の専科指導により、小学校教員の負担軽減につながっている。 ◆課題			

	・ 乗り入れ授業の内容(教科・頻度)は、教員の配置(所持免許)により左右される。 ・ 小学校から中学校への乗り入れ授業が実施できていない。 ・ ティームティーチングによる指導が展開されず、中学校の専科教員のみ対応している場合があるとの報告があることから、今後に向けて現状と課題の把握を図る必要がある。 ・ 斗川小学校において技能教科も乗り入れ授業ができるよう検討が必要である。			
事業の方向性	継続 改善	☐	拡充 縮小	各教科部会等においてティームティーチングによる役割分担を明確にし、授業の質の向上と教員の負担軽減に努めるとともに、より効果的な乗り入れ授業の実践に努める。

〔オ〕 小中一貫教育支援特別講師設置事業				
事業の概要	◆目的 小中一貫教育における中学校から小学校への乗り入れ授業や、不登校傾向や発達障害の疑いのある生徒に対する生徒指導の充実のため、小中一貫教育支援特別講師を設置する。 ◆事業費 9, 5 4 7 円 (財源 一般9, 5 4 7 千円)			
実 績	◆配置状況 (全3名) 三戸中学校3名 (英語科、数学科、生徒指導の各1名)			
成果と課題	◆成果 ・ ティームティーチング、習熟度別等のクラス分けによる少人数指導、一斉授業における個別指導、生徒指導を行ううえで特別な配慮を要する生徒への支援など、ニーズに応じたきめ細やかな教育活動を展開することができた。 ◆課題 ・ 生徒間の習熟度に大きな開きがあり、一斉授業では指導しきれない部分について、教諭と特別講師の役割を明確にし、下位の底上げと上位の伸展につながるような活用方法を更に工夫する必要がある。			
事業の方向性	継続 改善	☐	拡充 縮小	

〔カ〕 英語科教育コーディネート事業				
事業の概要	◆目的 弘前大学教育学部佐藤剛准教授との共同研究により三戸町小中一貫教育における9年間を見通した英語科指導の確立を図る。 ◆事業費 1 4 3 千円 (財源 一般1 4 3 千円)			
実 績	◆概要 ・ 第1回英語科プロジェクトチームにおける協議 (1) 日程：令和6年4月19日(金) (2) 場所：小中一貫三戸学園三戸小・中学校「第2理科室」 (3) 対象：英語科プロジェクトチーム所属教員 (4) 内容：E n g l i s h d a y 実施や三戸テスト、CAN-DOリストを活用した授業の実践について協議を行った。 ・ 小中一貫三戸学園三戸小・中学校「第1回E n g l i s h d a y」への参加 (1) 日程：令和6年4月26日(金) (2) 場所：小中一貫三戸学園三戸小・中学校			

	・第2回英語科プロジェクトチームにおける協議 (1) 日程：令和6年6月11日（火） (2) 場所：小中一貫三戸学園三戸小・中学校「8年1組教室」及び「第二会議室」 (3) 対象：英語科プロジェクトチーム所属教員 (4) 内容：CAN-DOリストを活用した授業を見学するとともに、当該授業の実践について協議を行った。また、上と下の学年の教科書の活用について提案をいただいた。 ・第3回英語科プロジェクトチームにおける協議 (1) 日程：令和6年8月7日（金） (2) 場所：小中一貫三戸学園三戸小・中学校「第2理科室」 (3) 対象：英語科プロジェクトチーム所属教員 (4) 内容：English dayやCAN-DOリスト、帯活動、三戸テストについて協議を行った。 ・第5回英語科プロジェクトチームにおける協議 (1) 日程：令和7年2月21日（金） (2) 場所：小中一貫三戸学園三戸小・中学校「第二会議室」 (3) 対象：英語科プロジェクトチーム所属教員 (4) 内容：帯活動の実施方法や三戸テストの提案をいただき、内容について協議を行った。			
成果と課題	◆成果 ・小中一貫三戸学園全体でEnglish dayを実施することができた。 ・児童の到達度を計る三戸テストの素案を作成することができた。 ◆課題 ・CAN-DOリストの活用が進んでいないため、拡大コピーしたCAN-DOを掲示し意識付けする必要がある。 ・英語科プロジェクトチームの開催に当たり、日程調整が困難であるため、年間開催計画を立てる必要がある。			
事業の方向性	継続	○	拡充	
	改善		縮小	

（２）授業の充実

〔キ〕 授業技術研修講座（三戸地方教育研究所）				
事業の概要	◆目的 効果的な授業技術について研修し、児童生徒の学ぶ意欲を高め、主体的・対話的で深い学びを促す指導ができるよう、教職員の資質向上と授業改善の推進に資する。 ◆事業費 15千円			
実績	◆内容 授業技術研修講座（授業におけるICTの活用） 講師 青森県総合学校教育センター 義務教育課 指導主事 宮古 和行 氏 指導主事 松尾 和明 氏 対象 二町小中教職員 参加者9名（うち三戸町6名）			
成果と課題	◆成果 ・ICTを使用する意義や具体的かつ効果的なICTの活用の仕方等を研修することができた。			

	・実際に端末を使用しながら、アプリケーションを操作する演習を通し、ICTの活用スキル向上に資することができた。 ◆課題 ・ICT活用については、教職員一人一人の活用力が異なるため、受講対象者を絞り、初級編、中級編、上級編と内容を設定する必要があった。			
事業の方向性	継続 改善	○	拡充 縮小	来年度は一般教養研修として教職員資質研修講座を行うため、休講する。再来年度以降は、教育的ニーズに応じた研修内容を設定し、教職員の授業技術向上を図っていききたい。

(3) 立志科の充実

〔ク〕 立志科推進事業補助金交付事業							
事業の概要	◆目的 独自の教科である「立志科」により心豊かでたくましい児童生徒を育むため、各学校が地域に根ざした教育活動を推進するための事業に対し補助金を交付する。 ◆事業費 630千円（財源 一般630千円）						
実績	◆事業概要 （１）補助対象となる事業内容 自然環境や環境問題に関する体験を取り入れた教育活動 自然体験や社会奉仕体験を取り入れた教育活動 郷土理解に関わる体験を取り入れた教育活動 勤労生産・職業体験を取り入れた教育活動 上記を取り入れて行う、幼児・高齢者・障害者・外国人等や他校種等との交流活動 （２）各学校の活動内容 <table><tr><td>三戸小学校 （250千円）</td><td>斗川小学校 （170千円）</td></tr><tr><td>伝統食文化体験 伝統料理体験 昔の遊び体験 福祉体験 伝統芸能の伝承 英会話体験</td><td>畑作花き体験 稲作体験 斗内獅子舞伝承 国際理解体験 魚の飼育、観察</td></tr></table> <table><tr><td>三戸中学校 （210千円）</td></tr><tr><td>職場体験 郷土理解体験 秋まつり体験</td></tr></table>	三戸小学校 （250千円）	斗川小学校 （170千円）	伝統食文化体験 伝統料理体験 昔の遊び体験 福祉体験 伝統芸能の伝承 英会話体験	畑作花き体験 稲作体験 斗内獅子舞伝承 国際理解体験 魚の飼育、観察	三戸中学校 （210千円）	職場体験 郷土理解体験 秋まつり体験
三戸小学校 （250千円）	斗川小学校 （170千円）						
伝統食文化体験 伝統料理体験 昔の遊び体験 福祉体験 伝統芸能の伝承 英会話体験	畑作花き体験 稲作体験 斗内獅子舞伝承 国際理解体験 魚の飼育、観察						
三戸中学校 （210千円）							
職場体験 郷土理解体験 秋まつり体験							
成果と課題	◆成果 ・立志科を通じて身につけさせたい10の能力（自己を律する力、自己を啓発する力、他者を受容する力、仲間づくりをする力、集団生活で協力する力、規範を尊重する力、伝統文化や自然環境を理解する力、文化的活動を企画運営する力、社会的役割を遂行する力、将来設計をする力）の涵養につながった。 ・地域の方々とのふれあいを通じて、地域の学校支援意識の向上につながった。 ・地域に伝わる伝統・文化の継承の一助となっている。 ◆課題						

			・特になし。	
事業の 方向性	継続	○	拡充	
	改善		縮小	

(4) 体育健康教育の充実

〔ケ〕 基本的生活習慣（生活リズム）講演事業				
事業の 概要	◆目的 基本的な生活習慣の重要性に関する講演会を実施し、児童生徒が生活習慣改善に取り組む機運を醸成する。 ◆事業費 0千円			
実 績	◆概要 (1) 日程：令和6年11月8日（金） (2) 場所：小中一貫三戸学園三戸小・中学校「学習センター」 (3) 対象：小中一貫三戸学園三戸小学校・斗川小学校6年生（62名） (4) 演題：生活リズムを整えよう「早寝早起き朝ごはん」 (5) 講師：「早寝早起き朝ごはん」全国協議会参与 馬場幸治氏			
成果と 課題	◆成果 ・生活リズムを整える大切さを理解させるとともに、生活習慣改善に取り組む機運を醸成することができた。 ◆課題 ・学校・家庭・地域が一丸となって生活習慣改善に取り組む機運を醸成する必要がある。			
事業の 方向性	継続	○	拡充	
	改善		縮小	

〔コ〕 栄養教諭による食の出前授業				
事業の 概要	◆目的 子どもたちが食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身に付けることができるよう学校における食育の一層の充実を図るため、栄養教諭による児童生徒への食に関する授業を実施する。 ◆事業費 0円			
実 績	◆16回実施 三戸小学校10回、斗川小学校3回、三戸中学校3回			
成果と 課題	◆成果 ・授業実施後は給食を残さないで食べるようになったり、食の楽しさや食の大切さを理解している様子が感じられ、食に関する意識の向上が顕著に見られた。 ◆課題 ・食に関する正しい習慣や知識を習得させるには継続した活動が必要である。 ・食の出前授業内容を設定する際に、家庭や地域の生活スタイルや食環境の実態及び課題を明確にする必要がある。			
事業の 方向性	継続	○	拡充	
	改善		縮小	

(5) 生徒指導の充実

〔サ〕 生活習慣改善による不登校対策事業				
事業の	◆目的			

概要	中1ギャップを生じる予備軍である中等部の児童生徒や、睡眠不足が指摘されている高等部の生徒を対象に、生活習慣や睡眠実態等の調査をタブレット端末を利用したA Iアプリによる評価を行い、生活リズムを見直す機会を提供する。 ◆事業費 107千円（財源 一般107千円）			
実績	◆事業概要 (1) 調査期間 令和7年1月20日から2月2日までの連続する14日間 (2) 調査対象 町内全ての4年生から9年生までの児童生徒 347名 (3) 調査方法 学校の1人1台端末からWebの「みんなのA Iアプリ」にアクセスして睡眠時間等の情報を入力。 (4) 評価及びフィードバック A Iアプリによる結果と評価コメントを児童生徒及び学校へフィードバック。 ※A I評価医師 三池輝久氏（熊本大学名誉教授、日本眠育推進協議会理事長）			
成果と課題	◆成果 ・自らの生活リズムを可視化することによる生活改善への意識づけや医学的見地からの助言による行動の変容につなげている。 ・記録をWeb上で行ったことにより、児童生徒はいつでも自分の端末から評価を確認することができる。 ・養護教諭と協働した取り組みをすることで、データ等を共有することができた。 ◆課題 ・不登校の児童生徒数は減少していないことから、効果的な事業の展開が必要である。 ・不登校傾向にある児童生徒の入力が少なかったため、学校や家庭の協力を得ながら、現状を把握し、生活リズムの向上を促す工夫が必要である。			
事業の方向性	継続 改善	☐	拡充 縮小	

〔シ〕 学級経営のための調査（Q-U、ASSESS）（三戸地方教育研究所）				
事業の概要	◆目的 学級の状態を把握するための調査「hyper-QU」・「Q-U」を三戸小中学校で実施、「ASSESS」を斗川小で実施し、活用を促すことにより児童生徒理解に基づいた生徒指導、より良い学級経営の実現に資する。 ◆事業費 615千円（うち三戸町分418千円）			
実績	◆ 1回目 5月「hyper-QU」 対象 三戸小中学校 2回目10月「Q-U」 対象 三戸小中学校 1回目 5月「ASSESS」 対象 斗川小学校 2回目10月「ASSESS」 対象 斗川小学校			
成果と課題	◆成果 ・「hyper-QU」では、学級の満足度尺度、個人の生活意欲尺度、ソーシャルスキル、学力とのクロス集計など、教師用の詳細な分析データと児童生徒用個人票が送付され、各学校で活用していただいている。また、2回目の「Q-U」の結果と比較し、各学級の変容をとらえ、指導を行うことができた。いじめや不登校の未然防止の資料としても活用できる部分が多い。 ・「hyper-QU」「Q-U」では学級集団の中で児童生徒の満足度を測るものであり、小規模校			

	の実態に合わないということから、斗川小学校では「ASSESS」を行った。「ASSESS」は児童生徒が学校環境にどれだけ適応しているのかを測るもので、個人の現状や変容が捉えやすく、児童理解や学級経営に活用していただいている。 ・今年度は、教職員研修会や校内研修等派遣事業で青森県学校教育センターの指導主事による、「Q-U」や「ASSESS」の分析や活用の仕方についての研修会を行うことで、学級経営力向上や児童生徒理解へ資することができた。 ◆課題 ・「hyper-QU」及び「Q-U」については、業者に分析を依頼しており、結果が届くのに1ヶ月程度かかるので、各校の実施時期を揃える必要がある。 ・「Q-U」や「ASSESS」の結果を用いた対応検討会については、個人情報の観点から、学校単位で研修を行うことが望ましい。			
事業の方向性	継続	○	拡充	
	改善		縮小	

〔ス〕 教育相談室運営（三戸地方教育研究所）				
事業の概要	◆目的 三戸地方に在住するおおむね18歳以下の児童・生徒の教育に関して、家庭や学校及びその他からの相談に応じて必要な助言指導を行い、不登校など課題解決の援助を図る。 ◆事業費 0千円			
実績	◆事業概要 (1)教育相談のべ件数 5件 実相談人数 5名（うち三戸町：小4名、中0名、高0名） (2)適応指導のべ件数 1件 実指導人数 1名（うち三戸町：小0名、中0名、高0名） (3)電話相談件数 11件（うち三戸町：小2名、中0名、高0名）			
成果と課題	◆成果 ・今年度は不登校に関する来所相談2名があったが、学校と連携し、その後2名とも再登校につなげることができた。 ◆課題 ・前述した児童生徒以外にも不登校傾向が見られる児童生徒がいるが、適応指導教室の利用はないので、学校と連携して引き続き取り組んでいく。			
事業の方向性	継続	○	拡充	
	改善		縮小	

〔セ〕 不登校等連絡会議（三戸地方教育研究所）				
事業の概要	◆目的 不登校となっている児童生徒の事例について専門的知識を有する講師から対応の仕方などについて指導助言を受けることにより、児童生徒の指導の改善と不登校の解消を図る。また、小中学校の不登校児童生徒の情報を共有することにより小中学校が連携した指導の実現を図る。 ◆事業費 24千円			
実績	◆事業概要 (1)会議：年間4回の開催 ①第1回目：各小中学校における不登校についての情報交換、スクールソーシャルワーカーによる不登校の現状とアプローチの仕方についての情報提供 ①第2回目～第4回目：各校の事例に応じた個別相談			

	(2)対象：三戸地方の不登校児童生徒の指導にかかわる教職員 (3)参加人数 1回目：4名 2回目：3名 3回目：4名 4回目：5名 (4)講師：福井 淳悦 氏（三八教育事務所 スクールソーシャルワーカー） 葛西 励 氏（青森県総合学校教育センター教育相談課 指導主事） 高田 秀行 氏（青森県総合学校教育センター教育相談課 指導主事） 奈良岡洋平 氏（青森県総合学校教育センター教育相談課 指導主事） (5)不登校等連絡会議での相談件数・事例報告された件数（人数） 小学生 5件（ 4名） （うち三戸町：2件（2名）） 中学生 7件（ 5名） （うち三戸町：4件（4名）） 合計 12件（ 9名） （うち三戸町：6件（6名））			
成果と課題	◆成果 ・第1回では、スクールソーシャルワーカーを講師として招聘し、不登校の現状とアプローチの仕方について情報提供をいただくことができた。 ・第2回～第4回については、個別相談会として実施することで、県総合学校教育センター指導主事から、児童生徒、保護者への対応について具体的な助言をいただくことができた。 ◆課題 ・児童生徒の家庭環境が複雑で、学校単独だけでは解決が難しい場合は、SSWやSC、保健師、民生委員など各関係機関と連携していく必要がある。			
事業の方向性	継続 改善	☐ 拡充 ☐ 縮小		

（6）キャリア教育の推進

〔ソ〕 立志科推進事業補助金交付事業（再掲・立志科の充実と関連）																
事業の概要	◆目的 独自の教科である「立志科」により心豊かでたくましい児童生徒を育むため、各学校が地域に根ざした教育活動を推進するための事業に対し補助金を交付する。 ◆事業費 630千円（財源 一般630千円）															
実績	◆事業概要 （１）補助対象となる事業内容 自然環境や環境問題に関する体験を取り入れた教育活動 自然体験や社会奉仕体験を取り入れた教育活動 郷土理解に関わる体験を取り入れた教育活動 勤労生産・職業体験を取り入れた教育活動 上記を取り入れて行う、幼児・高齢者・障害者・外国人等や他校種等との交流活動 （２）各学校の活動内容 <table><tr><td>三戸小学校 （250千円）</td><td>斗川小学校 （170千円）</td></tr><tr><td>伝統食文化体験</td><td>畑作花き体験</td></tr><tr><td>伝統料理体験</td><td>稲作体験</td></tr><tr><td>昔の遊び体験</td><td>斗内獅子舞伝承</td></tr><tr><td>福祉体験</td><td>国際理解体験</td></tr><tr><td>伝統芸能の伝承</td><td>魚の飼育、観察</td></tr><tr><td>英会話体験</td><td></td></tr></table> <table><tr><td>三戸中学校</td></tr></table>	三戸小学校 （250千円）	斗川小学校 （170千円）	伝統食文化体験	畑作花き体験	伝統料理体験	稲作体験	昔の遊び体験	斗内獅子舞伝承	福祉体験	国際理解体験	伝統芸能の伝承	魚の飼育、観察	英会話体験		三戸中学校
三戸小学校 （250千円）	斗川小学校 （170千円）															
伝統食文化体験	畑作花き体験															
伝統料理体験	稲作体験															
昔の遊び体験	斗内獅子舞伝承															
福祉体験	国際理解体験															
伝統芸能の伝承	魚の飼育、観察															
英会話体験																
三戸中学校																

		(210千円)		
		職場体験 郷土理解体験 秋まつり体験		
成果と課題	◆成果	・ 立志科を通じて身につけさせたい10の能力（自己を律する力、自己を啓発する力、他者を受容する力、仲間づくりをする力、集団生活で協力する力、規範を尊重する力、伝統文化や自然環境を理解する力、文化的活動を企画運営する力、社会的役割を遂行する力、将来設計をする力）の涵養につながった。 ・ 地域の方々とのふれあいを通じて、地域の学校支援意識の向上につながった。 ・ 地域に伝わる伝統・文化の継承の一助となっている。		
	◆課題	・ 特になし。		
事業の方向性	継続	○	拡充	
	改善		縮小	

（７）特別支援教育の充実

〔タ〕 小中一貫教育チューター設置事業				
事業の概要	◆目的	発達障害を含む教育上特別の支援を必要とする児童生徒一人一人の教育的ニーズに対応した適切な支援を行うため、小中一貫教育チューターを設置する。		
	◆事業費	18,470千円（財源 一般18,470千円）		
実績	◆配置状況（全6名）	三戸小・中学校5名 斗川小学校1名		
成果と課題	◆成果	・ 教育上特別な支援を要する児童生徒に対し、個に応じた学習活動上のサポートを行い、円滑な教育活動が展開できた。		
	◆課題	・ 特別な支援を要する児童生徒の数が増加傾向にある中、配置によるメリットを最大化できるよう職分を明確化し、組織的な支援体制を構築することが必要。		
事業の方向性	継続		拡充	○
	改善		縮小	
特別な支援を要する児童生徒が増加傾向にあることから、次年度は2名程度の増員を予定している。				

〔チ〕 教育支援委員会（三戸地方教育研究所）					
事業の概要	◆目的	三戸町および田子町の特別な支援を要する幼児・児童・生徒の適切な教育相談・支援や就学後の一貫した支援を進めるとともに、特別支援教育の推進及び教育支援態勢の充実に図る。			
	◆事業費	321千円（負担割合で按分 三戸町分… 218千円 68%）			
実績	◆（1）会議 事務説明会（1回）教育支援専門委員会（4回）教育支援委員会（4回）				
	（2）審議状況（三戸町分）				
		通常学級在籍		特別支援学級在籍	
		小学生	中学生	小学生	中学生
	審査対象者	5	0	5	0
	特別支援学校判定者	1	0	5	0
				令和7年度新入学児童	
				8	
				4	

	特別支援学級判定者					0	0	0	0	1
	通級指導判定者					3	0	0	0	2
	通常学級判定者					1	0	0	0	1
	(3)特別支援学級交流学習会 内容 ニュースポーツ体験・交流 講師 さんのヘススポーツクラブ Enjoy 松原 栄子 氏 参加者 21名（うち三戸町 19名（小学生16名 中学生3名））									
成果と課題	◆成果 ・教育支援委員会では、特別支援学校の先生方の助言をいただきながら、慎重な審議により、児童生徒の適正就学について答申を行い、有効と思われる支援方法についても協議することができた。 ・5年ぶりの開催となった特別支援学級交流学習会は、ニュースポーツ体験を通して児童生徒同士の交流を深めることができた。 ◆課題 ・自閉症・情緒障害学級在籍の判定は、心理検査結果に明確に数値として出ないため、判断が難しい。 ・新入学児童の適正就学判定についても判断が難しいため、幼稚園、こども園、保育園の先生に支援委員会に出席していただきたいという声が上がっている。 ・通級指導教室における自立活動の指導内容について、支援委員会で共有していく機会（情報交換）があるとよい。 ・知能検査を行うための、検査者の確保が必要である。									
事業の方向性	継続	○	拡充							
	改善		縮小							

〔ツ〕 教育支援委員会学習会（三戸地方教育研究所）	
事業の概要	◆目的 個別の指導計画及び個別の支援計画の作成と活用方法について学習することにより、特別支援教育に対する理解を深め、一人一人の教育的ニーズに応じた適切な教育的支援の在り方を研修する。 ◆事業費 4千円
実績	◆学習会① 内容 「特別支援の必要な子どもとの関わり方、各自の個別の指導計画に基づいた自立活動のカリキュラム作成について」 講師 三八教育事務所 指導主事 橘 宏卓 氏 対象 郡内で新たに特別支援教育担当となった教職員、特別支援学級を担当して3年未満の教員 参加者 12名（うち 三戸町2名） ◆学習会② 内容 「よりよい支援のための個別の教育支援計画、個別の指導計画、自立活動の個別の指導計画の評価・分析・見直し」 講師 五戸町立五戸中学校 教頭 今田 華織 氏 対象 三戸地方教育支援委員会専門委員、三戸郡内特別支援学級担当者 希望する方 参加者 18名（うち 三戸町3名） ◆成果 ・学習会①では、指導計画の作成方法の手順について演習形式で進められ、初めて担当す

成果と課題	る先生方にとって、大変理解しやすい内容だった。 ・学習会②では、実際に活用している個別の指導計画等について、講師から具体的にアドバイスをいただき、当該児童生徒への指導や支援について見直す機会になった。また、怒りについての理論を研修することで、児童生徒理解につながった。 ◆課題 ・学習会①の実施時期については、遅くとも5月中に行い、自立活動等の指導計画に活かしていただきたいと考えているが、各校の体育祭や運動会の時期と重なることが多く、参加につなげることが難しい。			
事業の方向性	継続 改善	拡充 縮小	○	今年度は、学習会を2回実施した。来年度は新任者および3年未満担当向けの学習会を1回実施する予定である。

(8) 環境教育の推進

〔テ〕 立志科推進事業補助金交付事業（再掲・立志科の充実、キャリア教育の推進と関連）							
事業の概要	◆目的 独自の教科である「立志科」により心豊かでたくましい児童生徒を育むため、各学校が地域に根ざした教育活動を推進するための事業に対し補助金を交付する。 ◆事業費 630千円（財源 一般630千円）						
実績	◆事業概要 （１） 補助対象となる事業内容 自然環境や環境問題に関する体験を取り入れた教育活動 自然体験や社会奉仕体験を取り入れた教育活動 郷土理解に関わる体験を取り入れた教育活動 勤労生産・職業体験を取り入れた教育活動 上記を取り入れて行う、幼児・高齢者・障害者・外国人等や他校種等との交流活動 （２） 各学校の活動内容 <table><tr><td>三戸小学校 （250千円）</td><td>斗川小学校 （170千円）</td></tr><tr><td>伝統食文化体験 伝統料理体験 昔の遊び体験 福祉体験 伝統芸能の伝承 英会話体験</td><td>畑作花き体験 稲作体験 斗内獅子舞伝承 国際理解体験 魚の飼育、観察</td></tr></table> <table><tr><td>三戸中学校 （210千円）</td></tr><tr><td>職場体験 郷土理解体験 秋まつり体験</td></tr></table>	三戸小学校 （250千円）	斗川小学校 （170千円）	伝統食文化体験 伝統料理体験 昔の遊び体験 福祉体験 伝統芸能の伝承 英会話体験	畑作花き体験 稲作体験 斗内獅子舞伝承 国際理解体験 魚の飼育、観察	三戸中学校 （210千円）	職場体験 郷土理解体験 秋まつり体験
三戸小学校 （250千円）	斗川小学校 （170千円）						
伝統食文化体験 伝統料理体験 昔の遊び体験 福祉体験 伝統芸能の伝承 英会話体験	畑作花き体験 稲作体験 斗内獅子舞伝承 国際理解体験 魚の飼育、観察						
三戸中学校 （210千円）							
職場体験 郷土理解体験 秋まつり体験							
成果と課題	◆成果 ・ 立志科を通じて身につけさせたい10の能力（自己を律する力、自己を啓発する力、他者を受容する力、仲間づくりをする力、集団生活で協力する力、規範を尊重する力、伝統文化や自然環境を理解する力、文化的活動を企画運営する力、社会的役割を遂行する力、将来設計をする力）の涵養につながった。 ・ 地域の方々とのふれあいを通じて、地域の学校支援意識の向上につながった。						

	・地域に伝わる伝統・文化の継承の一助となっている。 ◆課題 ・特になし。			
事業の方向性	継続 改善	○ 	拡充 縮小	

(9) 国際化に対応する教育の推進

〔ト〕 外国語指導助手（A L T）招致事業				
事業の概要	◆目的 小中一貫教育英語科の充実及び国際理解教育の促進、並びに地域における国際交流の推進を図る。 ◆事業費 9, 3 0 1 千円（財源 一般9, 0 5 5 千円・公舎使用料2 4 6 千円）			
実 績	◆概要 (1) 人数 2 名（J E T-A L T 1 名、町雇用A L T 1 名） (2) 配置校 町内全小中学校3校（小学校2校、中学校1校） (3) 保育所等派遣 1施設、1回（学校長期休業中） (4) その他 中学生英語スピーチコンテスト指導協力、海外派遣研修事業英会話指導、町内保育所等での英語体験活動等			
成果と課題	◆成果 ・児童生徒の英語に対する興味や関心、意欲が引き出され、特に小学校においては全ての英語科の授業で活用されており、その効果は非常に大きい。また、秋祭り参加やロータリークラブとの交流などを通し、地域の国際交流促進につながっている。 ◆課題 ・A L Tを最大限有効に活用できるよう、年度毎にA L Tの配置について学校及び本人と協議する。			
事業の方向性	継続 改善	○ 	拡充 縮小	

〔ナ〕 英検受験料補助				
事業の概要	◆目的 令和5年度に作成したCAN-DOリストにおいて、英検の資格取得を具体的な目標としていることを踏まえ、最終学年である9年生に対して英検受験料の補助を行う。 ※CAN-DOリストにおける検定試験の目標 7・8年生：英検5級－英検4級、9年生：英検3級－英検準2級 ◆事業費 2 2 7 千円（財源 一般2 2 7 千円）			
実 績	◆概要 (1) 対象者 三戸中学校9年生64名 (2) 受験者 5級5名、4級28名、3級19名、準2級4名、2級2名、計58名 (3) 取得者 5級5名、4級22名、3級13名、準2級3名、計43名			
成果と課題	◆成果 ・9年生の英語力の到達度を計るとともに、9年間を通した英語教育の成果を測ることができた。 ◆課題 ・CAN-DOリストにおいて、英検の資格取得を中学生の具体的な目標としていることから、補助対象者の拡大を検討していく必要がある。			
事業の方向性	新規 改善	○ 	拡充 縮小	

〔ニ〕 中学生海外派遣事業				
事業の概要	◆目的 外国の生活習慣や文化に触れることによる視野の拡大と国際意識の向上を図る。また、ホームステイを通じた異文化交流や国際理解により、英会話学習の推進を図る。 ◆事業費 6,612千円（財源 一般5,412千円・参加者負担1,200千円）			
実績	◆概要 (1) 実施日 令和6年10月28日（月）から11月2日（土）まで (2) 実施場所 オーストラリア シドニー (3) 参加人数 三戸中学校8学年10名 (4) 実施内容 1日目（10/28）出発・出国 2日目（10/29）入国・観光・ホームステイ 3日目（10/30）授業体験・ホームステイ 4日目（10/31）授業体験・ホームステイ 5日目（11/01）授業体験・交流会・観光・出国 6日目（11/02）帰国・帰着			
成果と課題	◆成果 ・学んだ英語を海外で活用し、うまく伝わらない場合でもコミュニケーションを取ろうとする姿勢を養うことができた。 ・外国人との英会話では、失敗を恐れずにジェスチャーを交えながら積極的な交流をすることができた。 ・ホームステイを通じ、生活習慣や異文化を肌で感じたことで、国際交流を理解し、視野を広げることができた。 ◆課題 ・コロナ禍で実施していたオンライン留学について、海外派遣に参加しない児童生徒も体験できることから、実施について検討が必要である。 ・海外への派遣を行う際は、感染症の状況や受入先の態勢（交流校・ホームステイ先の確保等）を考慮して行う。 ・派遣先（タムワース高校等）と学校（三戸）をオンラインでつなぎ、コミュニケーションをとる等、ICTを取り入れた交流を検討する。			
事業の方向性	継続	○	拡充	
	改善		縮小	

（１０）情報化に対応する教育の推進

〔ヌ〕 ICT支援員設置事業				
事業の概要	◆目的 小学校における情報教育を円滑に進めるため、小学校にコンピュータ技能者を配置することにより、専門性の発揮による情報教育の推進を図るとともに、教員の負担の軽減を図る。 ◆事業費 4,370千円（財源 一般 4,370千円）			
実績	◆①配置期間 令和6年4月1日 ～ 令和7年3月31日 ②配置学校 三戸小・中学校 1人 ③業務内容 ・学級単位のパソコン学習における担任教員とのチームティーチング ・パソコンを活用した調べ学習等への随時、個別指導 ・パソコン機器・ソフトの保守管理 ・教員へのパソコン指導及びデータ作成等の校務支援			

	・学校ホームページの作成			
成果と課題	◆成果 ・パソコンのハード・ソフトの保守管理が常に万全であるため、クラス全員での授業においても機器・ソフトの不具合により授業に支障を来すことなく、円滑な授業を行うことができた。 ・保守管理のための教職員の負担軽減が図られ、教員が授業準備や児童との関わりの時間を確保することができた。 ・学校が必要とするデータの集計等のフォーム等を作成することにより、事務処理の効率化に繋がった。 ・教職員が使用するパソコンの定期的なメンテナンス実施により、パソコンを使用する事務処理環境が常に良好に保たれている。 ◆課題 ・G I G Aスクール構想に伴う1人1台端末の整備、高速通信可能なネットワーク環境の整備や学力テストのC B T化等により、年々求められる役割が大きくなっており、マンパワー不足が懸念させる。			
事業の方向性	継続 改善	○	拡充 縮小	

〔ネ〕 三戸地方未来塾補助事業				
事業の概要	◆目的 I C T教育の環境整備及び振興を図るため、三戸地方未来塾が行うI C Tクラブの運営や学校への出前授業、未来体験講座、ワークショップの開催などの各種事業に対し補助金を交付する。 ◆事業費 1, 0 0 0 千円（財源 一般1, 0 0 0 千円）			
実 績	◆実施事業 1 I C Tクラブの運営（学校のある水曜日に開催） （1）日程：令和6年6月5日～令和7年3月5日 小学生24回、中学生22回 （2）対象：町内小・中学生（4～9年生） 小学生20名、中学生8名 （3）内容：キーボード入力、スクラッチを活用したプログラミングの実践など 2 出前授業①冬休み体験講座 （1）日程：令和7年1月8日・1月9日・1月10日の3日間 （2）対象：参加希望者のべ26名（8日10名、9日8名、10日8名） （3）内容：スクラッチを活用したプログラミングの実践などの創作活動 2 出前授業② （1）日程：令和7年2月20日・2月21日の2日間 （2）対象：小中一貫三戸学園斗川小学校1～6年生 18名 （3）内容：キーボード入力、スクラッチを活用したプログラミングの実践など			
成果と課題	◆成果 ・プログラミング教育が必修化され、学校でプログラミング的思考を学習した子どもたちが、地域の中でも継続的に学べるI C Tクラブを運営することができた。 ・斗川小学校の全児童も出前授業としてプログラミングを体験することができた。 ◆課題 ・学校外でI C T教育活動を展開することで、不登校など問題を抱える児童生徒も参加させたかったが難しかった。			
事業の方向性	継続 改善	○	拡充 縮小	

〔ノ〕 G I G Aスクールサポート業務				
事業の概要	◆目的 GIGAスクール構想による1人1台端末整備後の通信環境の良好な運用管理や保守点検を行うとともに、有効活用のための教職員への研修を行う。 ◆事業費 792千円（財源 国庫264千円 一般528千円）			
実績	◆事業概要 GIGAスクールネットワーク環境の良好な運用管理のための支援 （１）頻度：月１回程度 （２）対象：町内全小中学校 （３）内容：年度更新設定、ネットワーク設定更新、フィルタリング設定等更新			
成果と課題	◆成果 ・教育のICT化に必要なネットワークやフィルタリングの設定の更新や、システムの運用支援により適切なICT環境の維持につながっている。 ◆課題 ・急速な教育現場のICT化が進行し、新たな知識が必要となる中、引き続き実際に活用する教職員の育成が必要となる。 ・来年度から国庫からの補助金の事業対象外となるため、来年度から契約人日が減少する予定である。			
事業の方向性	継続 改善	拡充 縮小	○	

（１１）安全・安心な学校環境づくりの推進

〔ハ〕 学校施設・設備整備																	
事業の概要	◆目的 児童生徒に安全で快適な学習環境を提供するために施設・設備の整備及び適切な維持管理を行う。 ◆事業費 1,300千円																
実 績	◆主な工事・修繕 <table><tr><td>①斗川小学校浄化槽ブロワーポンプ修繕</td><td>26,620円</td></tr><tr><td>②三戸小中学校蓄電池復旧作業</td><td>11,000円</td></tr><tr><td>③斗川小学校女子トイレ洋式化工事</td><td>396,000円</td></tr><tr><td>④斗川小学校乗用草刈機修繕</td><td>38,049円</td></tr><tr><td>⑤斗川小学校消防用防火水槽ボールタップ修繕</td><td>38,500円</td></tr><tr><td>⑥斗川小学校体育館ステージキャスター修繕</td><td>173,800円</td></tr><tr><td>⑦三戸小中学校第2体育館テニスコートライン設置工事</td><td>440,000円</td></tr><tr><td>⑧三戸小中学校第1体育館前駐車場区画線整備工事</td><td>145,970円</td></tr></table>	①斗川小学校浄化槽ブロワーポンプ修繕	26,620円	②三戸小中学校蓄電池復旧作業	11,000円	③斗川小学校女子トイレ洋式化工事	396,000円	④斗川小学校乗用草刈機修繕	38,049円	⑤斗川小学校消防用防火水槽ボールタップ修繕	38,500円	⑥斗川小学校体育館ステージキャスター修繕	173,800円	⑦三戸小中学校第2体育館テニスコートライン設置工事	440,000円	⑧三戸小中学校第1体育館前駐車場区画線整備工事	145,970円
①斗川小学校浄化槽ブロワーポンプ修繕	26,620円																
②三戸小中学校蓄電池復旧作業	11,000円																
③斗川小学校女子トイレ洋式化工事	396,000円																
④斗川小学校乗用草刈機修繕	38,049円																
⑤斗川小学校消防用防火水槽ボールタップ修繕	38,500円																
⑥斗川小学校体育館ステージキャスター修繕	173,800円																
⑦三戸小中学校第2体育館テニスコートライン設置工事	440,000円																
⑧三戸小中学校第1体育館前駐車場区画線整備工事	145,970円																
成果と課題	◆成果 ・前年度、学校から出された施設整備の要望書に基づき、整備の計画をしたものについては計画通りに、また学校施設設備点検の結果を踏まえて修繕、対応を要するものについては随時整備を行った。 ◆課題 ・学校側からの要望事項は多種多様にわたるが、緊急度を勘案し計画的な予算計上に努め、修繕等を実施しなければならない。 ・施設の老朽化が進むにつれ高額を要する修繕等も増加傾向にあるため、国庫補助等の																

	財政措置について精査したうえで改修の計画等も検討する。			
事業の 方向性	継続	○	拡充	
	改善		縮小	

〔ヒ〕 日本スポーツ振興センター災害共済給付事業				
事業の 概要	◆目的 学校の管理下における児童生徒の災害（負傷、疾病、障害又は死亡）に係る医療費について、保護者に対し災害共済金の給付を行い保護者負担を軽減することにより、学校教育活動を円滑に実施することを目的とする。 ◆事業費 382千円（財源 一般239千円・その他143千円）			
実 績	◆共済加入児童生徒数 小学生249名 中学生169名 合計418名 ◆共済掛金 一般児童生徒 935円（町負担額535円、保護者負担額400円） 準要保護児童生徒 935円（町負担額935円） 要保護児童生徒 55円（町負担額47円、国庫補助8円） ◆発生件数・給付金 小学校 発生件数12件（給付件数21件） 66,771円 中学校 発生件数24件（給付件数51件） 440,327円			
成果と 課題	◆成果 ・児童生徒の負傷等に係る医療費支払い分その他、見舞金として1割加算分が給付されるため、保護者の医療費負担軽減につながっている。 ◆課題 ・町で実施している子ども医療費助成制度に優先して適用する制度のため、一旦は窓口負担を保護者に強いることになっている。 ・以前は児童生徒のほとんどが加入していたが、子ども医療費助成制度の普及により加入しない児童生徒も増えてきている。			
事業の 方向性	継続	○	拡充	
	改善		縮小	

〔フ〕 児童生徒緊急搬送タクシー運行事業			
事業の概要	◆目的 児童生徒の学校管理下内における事故への迅速な対応のため、各学校から病院まで怪我をした児童生徒の搬送を行う。 <table><tr><td>運行条件</td><td>①生命の危険が伴う場合は救急車対応 ②学校、病院までの往復対象（教職員引率） ③原則町内各病院、状況によっては町外の病院も可 ④タクシーの利用は、養護教諭から報告を受けた学校長の判断</td></tr></table> ◆事業費 60千円（一般財源60千円）	運行条件	①生命の危険が伴う場合は救急車対応 ②学校、病院までの往復対象（教職員引率） ③原則町内各病院、状況によっては町外の病院も可 ④タクシーの利用は、養護教諭から報告を受けた学校長の判断
運行条件	①生命の危険が伴う場合は救急車対応 ②学校、病院までの往復対象（教職員引率） ③原則町内各病院、状況によっては町外の病院も可 ④タクシーの利用は、養護教諭から報告を受けた学校長の判断		
実績	◆事故時における児童生徒の病院へのタクシーによる搬送回数 なし		
成果と課題	◆成果 ・学校管理下内における生命の危険を伴わない事故について、児童生徒の病院への搬送をタクシーにより行っている。平成17年度以前は、教員の自家用車を使用しており、交通事故等への対応について問題があった。同事業の実施により児童生徒の事故対応が迅速かつ適正に行われることとなる。		

事業の 方向性	継続 改善	○	拡充 縮小	
------------	----------	---	----------	--

(12) 教員研修の充実

〔へ〕 授業実践支援事業（三戸地方教育研究所）				
事業の 概要	◆目的 三戸町及び田子町の学力の向上を目指し、学級経営や授業に関する課題について授業参観、協議及び指導助言を行うことにより、三戸町及び田子町の学力の向上に資する。 ◆事業費 39千円（うち三戸町分 33千円）			
実 績	◆実施校 2校（うち三戸町1校） ・三戸学園 5学年算数（3回） 7学年数学（3回） 7学年社会（3回） ・田子小学校 3学年算数（2回） ・指導助言者 三八教育事務所 指導主事 前川原 泉音 氏（算数） 元南部町立向井小学校校長 芦名 均 氏（算数） 三戸町教育委員会教育施策推進監 小林 孝史 氏（数学） 前南部町立名川中学校校長 福井 淳悦 氏（社会） 新郷村立新郷中学校校長 橋本 満昭 氏（社会）			
成果と 課題	◆成果 ・様々な方に指導助言を依頼し、授業実践における専門的なアプローチをすることができた。 ・Q-Uの結果を活用し、学級経営の観点からも助言を行うことで、授業における生徒指導面の向上を図ることができた。			
事業の 方向性	継続 改善	○	拡充 縮小	

〔ホ〕 教育相談研修講座（三戸地方教育研究所）				
事業の 概要	◆目的 教育の専門家である教師が、法律の専門家から法的な視点に基づいた指導助言を仰ぐことで二町の教員の指導力に資する。 ◆事業費 0円			
実 績	◆教育相談研修講座（スクールロイヤーと学校等の円滑な連携） 講師 青森県スクールロイヤー弁護士 猪原 健 氏（東青地区担当） 対象 二町小中教職員、二町教育委員会職員 参加者 16名（うち三戸町12名）			
成果と 課題	◆成果 ・具体的な事例を用いた対応の仕方を小グループで検討するという形式で行い、その対応策について実際にスクールロイヤーから講評・助言をいただくことで、法的な視点に基づいた事例についての対応について理解を深めることができた。 ◆課題 ・個人情報の面から、実際に起きた事例は取り扱うことには注意が必要なため、架空の事例を準備する必要がある。			
事業の 方向性	継続 改善	○	拡充 縮小	スクールロイヤーからの具体的な事例や法的な観点からの助言が講評だったため、来年度も同様の研修内容を設定し、教員の指導力の向上を図る。

〔マ〕 学級経営研修講座（三戸地方教育研究所）				
事業の概要	◆目的 三戸地方の小中学校の教職員の学級経営力と授業力向上のための研修を通して、教職員の資質向上に資する。 ◆事業費 8千円			
実績	◆学級経営研修講座（児童生徒理解のための調査法の活用（Q-Uの分析・活用法）） 講師 青森県総合学校教育センター 教育相談課 指導主事 高田 秀行 氏 対象 三戸地方小中学校教職員 参加者8名（うち三戸町5名）			
成果と課題	◆成果 ・自分の学級の結果に照らし合わせながら、分析の仕方を具体的に教えていただいたことで、客観的に学級の状態を把握できた。また、気になる児童生徒への言葉かけや接し方を教えていただいたことで、支援のポイントが分かった。 ◆課題 ・「Q-U」の結果を用いた対応検討会については、学校単位で研修を行うことが望ましい。今回の参加人数では対応検討まで至らず、分析や活用の仕方についての理論中心の研修内容となった。			
事業の方向性	継続 改善	○	拡充 縮小	来年度は特別支援教育の観点から児童生徒への理解や対応についての内容を設定し、学級経営力の向上を図る。

〔ミ〕 授業技術研修講座（三戸地方教育研究所）（再掲・授業の充実と関連）				
事業の概要	◆目的 効果的な授業技術について研修し、児童生徒の学ぶ意欲を高め、主体的・対話的で深い学びを促す指導ができるよう、教職員の資質向上と授業改善の推進に資する。 ◆事業費 15千円			
実績	◆内容 授業技術研修講座（授業におけるICTの活用） 講師 青森県総合学校教育センター 義務教育課 指導主事 宮古 和行 氏 指導主事 松尾 和明 氏 対象 二町小中教職員 参加者9名（うち三戸町6名）			
成果と課題	◆成果 ・ICTを使用する意義や具体的かつ効果的なICTの活用の仕方等を研修することができた。 ・実際に端末を使用しながら、アプリケーションを操作する演習を通し、ICTの活用スキル向上に資することができた。 ◆課題 ・ICT活用については、教職員一人一人の活用力が異なるため、受講対象者を絞り、初級編、中級編、上級編と内容を設定する必要があった。			
事業の方向性	継続 改善	○	拡充 縮小	来年度は一般教養研修として教職員資質研修講座を行うため、休講する。再来年度以降は、教育的ニーズに応じた研修内容を設定し、教職員の授業技術向上を図っていききたい。

（１３）複式教育の充実

〔ム〕 学級経営のための調査（Q-U、ASSESS）（三戸地方教育研究所）（再掲・生徒指導の充実と関連）				
事業の	◆目的			

概要	学級の状態を把握するための調査「hyper-QU」・「Q-U」を三戸小中学校で実施、「ASSESS」を斗川小で実施し、活用を促すことにより児童生徒理解に基づいた生徒指導、より良い学級経営の実現に資する。 ◆事業費 647千円（うち三戸町分434千円）			
実績	◆ 1回目 5月「hyper-QU」 対象 三戸小中学校 2回目10月「Q-U」 対象 三戸小中学校 1回目 5月「ASSESS」 対象 斗川小学校 2回目10月「ASSESS」 対象 斗川小学校			
成果と課題	◆成果 ・「hyper-QU」では、学級の満足度尺度、個人の生活意欲尺度、ソーシャルスキル、学力とのクロス集計など、教師用の詳細な分析データと児童生徒用個人票が送付され、各学校で活用していただいている。また、2回目の「Q-U」の結果と比較し、各学級の変容をとらえ、指導を行うことができた。いじめや不登校の未然防止の資料としても活用できる部分が多い。 ・「hyper-QU」「Q-U」では学級集団の中で児童生徒の満足度を測るものであり、小規模校の実態に合わないということから、斗川小学校では「ASSESS」を行った。「ASSESS」は児童生徒が学校環境にどれだけ適応しているのかを測るもので、個人の現状や変容が捉えやすく、児童理解や学級経営に活用していただいている。 ・今年度は教職員研修会や校内研修等派遣事業で青森県学校教育センターの指導主事による、「Q-U」や「ASSESS」の分析や活用の仕方についての研修会を行うことで、学級経営力向上や児童生徒理解へ資することができた。 ◆課題 ・「hyper-QU」及び「Q-U」については、業者に分析を依頼しており、結果が届くのに1ヶ月程度かかるので、各校の実施時期を揃える必要がある。 ・「Q-U」や「ASSESS」の結果を用いた対応検討会については、個人情報の観点から、学校単位で研修を行うことが望ましい。			
事業の方向性	継続 改善	☐	拡充 縮小	

3. 社会教育指導の重点

(1) 学校・家庭・地域の協働による未来を担う人財の育成

〔ア〕 さんのへ農業小学校支援事業				
事業の概要	◆目的 子どもたちに農業体験を通して、働くこと、協力し合うことの大切さを教えたり、たくましい精神力・創造力を身につけさせたりするため、三戸食農推進協議会が行う農業小学校運営事業の運営を支援する。 ◆事業費 420千円（財源 一般420千円）			
実績	◆さんのへ農業小学校事業 ・実施日数 13回（月1回程度の土曜日の午前中に実施） ・登録児童 16名（三戸小＝12名、名川小＝2名、福地小＝1名、田子小＝1名） ・事業内容 農作業9回、販売体験1回、遠足1回、もちつき1回、式典1回			
成果と課題	◆成果 ・年間を通じて、多品種にわたる作物の植付、管理、収穫、販売、加工体験等を行い、充実した体験活動を行うことができた。 ・班編制による異年齢間の交流やグループ作業によりリーダーシップや積極性、協調性や思いやりの心を育むことができた。 ・農業普及振興室と連携することで、授業の幅が広がった。 ◆課題 ・植付・収穫は授業で行えるが、草取りや肥料散布などの日常管理を授業で実施することが難しい。 ・栽培の難易性や収穫時期などの条件により栽培品目の選択が難しい。			
事業の方向性	継続	☐	拡充	☐
	改善	☐	縮小	☐
事業開始時の趣旨に鑑み、今後近隣市町村へ周知を図り、参加者を募っていく。				

〔イ〕 三戸町子ども会育成連絡協議会支援事業				
事業の概要	◆目的 子ども会育成連絡協議会の事業を支援し、子どもの健全育成を推進する。 ◆事業費 110千円（財源 一般110千円）			
実績	◆子ども会バス遠足 ※子ども会わくわくキャンプは最低参加者数に満たなかったため代替イベントとして実施 （1）開催日 令和6年12月1日（日） （2）場所 青森県立美術館 （3）参加人数 27人 （4）内容 ジブリパークとジブリ展を鑑賞 ◆子ども会大会 （1）開催日 令和7年2月16日（日） （2）場所 三戸町民体育館 （3）参加人数 36人 （4）内容 けりゴマゲーム、モルック、ボッチャ、バッコ			
成果と課題	◆成果 ・わくわくキャンプの代替として実施したバス遠足は子ども・保護者から高評価であった。子ども会大会についても、昨年より参加者が増え、未就学児から大人まで交流を深め、子どもたちに遊びの場を提供することができた。			

	◆課題			・コロナが落ち着きわくわくキャンプを計画したが、参加者数が少なく実施することができなかった。内容を見直し、子どもたちが参加しやすい内容へ変えていく必要がある。
事業の方向性	継続	☐	拡充	イベント開催へ向けて関係各所との連携強化と開催方法の見直しを行うことが必要。
	改善	☐	縮小	

〔エ〕 ふれあい活動事業				
事業の概要	◆目的 子どもからお年寄りまで、早朝にあいさつをかわし、ふれあいながら、ごみ拾い、草取りや落ち葉拾いなど清掃・環境美化活動を行うことにより、各人が、自分の住んでいる地域を愛する心を育てるとともに、きれいで快適な町づくりに資するため実施するものである。 ◆事業費 0千円（財源 一般0千円）			
実績	◆年3回、花植え、ゴミ拾い、河川敷清掃、草刈り等の環境美化活動を実施。 第1回活動：令和6年 6月 2日（日） 第2回活動：令和6年 8月 4日（日） 第3回活動：令和6年10月 6日（日）			
成果と課題	◆成果 ・活動は定着しており、地域コミュニティ強化の一助となっている。 ◆課題 ・子どもたちの参加が少ないので、各町内会の会長や子ども会の会長への呼びかけや学校からの周知を依頼する等、参加の促進を図る。			
事業の方向性	継続 改善	○	拡充 縮小	

〔オ〕 放課後子ども教室推進補助事業				
事業の概要	◆目的 子どもを取り巻く環境の変化、家庭や地域の子育て機能・教育力の低下が指摘されるなか、地域住民の協力を得て、放課後に子どもたちが安全で安心して活動できる居場所づくりを推進することを目的として実施する放課後子ども教室の運営に必要な補助金を交付する。 ◆事業費 978千円（財源 国259千円、県259千円、一般460千円）			
実績	◆三戸小なかよし教室運営 (1)登録児童数14人、教育活動推進員8人、コーディネーター1人 (2)参加児童数 延べ 839人 (3)運営日数 年間103日（月・水・金） (4)活動内容 英語あそび、運動プログラム、囲碁教室、体験活動 他 (5)活動場所 老人福祉センター			
成果と課題	◆成果 ・今年度は、ヨガ体験や絵手紙作りなど新たな体験活動を実施することができた。 ・定期的な実行委員会を行い、指導員間で子どもたちに対する指導や運営等に関する共通理解を図り、安全に子どもたちを見守ることができた。 ◆課題 ・中央児童クラブとの一体型のプログラムや、斗川児童クラブとの交流会など、関係機関との共同事業の実施や、更なる連携の強化を推進していく。			
事業の方向性	継続 改善	○	拡充 縮小	

〔カ〕 青少年健全育成三戸町民会議運営事業				
事業の概要	◆目的 青少年が健康で人間性豊かに成長することを願い、青少年健全育成町民会議を設置し			

	町内各関係機関との連携のもと、青少年の健全育成を推進する。		
	◆事業費 35千円（財源 一般35千円）		
実績	◆朝のあいさつ運動 ・チラシ回覧 令和6年7月 2日 ・実施日 令和6年7月8日～12日 令和6年8月26日～8月30日 ・実施場所 各学校正門前、通学路等 ◆総会 ・令和6年9月11日（金） ◆青少年健全育成三戸町民研修会 ・令和6年12月8日（日） 研修会 講師：三八教育事務所 スクールソーシャルワーカー 福井 淳悦 氏 「不登校」～現状とアプローチ～		
成果と課題	◆成果 ・あいさつ運動のチラシ回覧をすることで、町民相互におけるあいさつの機運を高め、町民の参加を促した。あいさつ運動の実施日には早朝から青森県青少年健全育成推進員及び関連団体、地域住民にも参加いただき、学校正門前や通学路等で生徒・児童とあいさつを交わすことで、あいさつの重要性を広めることできた。 ・三戸町民全員を対象に、三八教育事務所 スクールソーシャルワーカー福井淳悦氏を講師に招き、町民大会を開催した。 ◆課題 ・特になし		
事業の方向性	継続改善	○ 拡充 縮小	

〔ク〕 家庭教育学級開催事業				
事業の概要	◆目的 参観日等、多くの親が集まる様々な機会において、家庭教育に関する学習機会を提供し、家庭の教育力の向上を図ることを目的とする。 ◆事業費 5 千円（財源 一般 5 千円）			
実 績	◆実施なし 内 容 派遣講師 参加人数			
成果と課題	◆成果 ・なし ◆課題 ・今後多くの団体に事業を活用してもらえよう周知方法等を考えたり事業内容を見直す必要がある。			
事業の方向性	継続	○	拡充	
	改善	○	縮小	

（２）活力ある地域コミュニティの形成に向けた人財の育成

〔ケ〕 二十歳を祝う会開催事業				
事業の概要	◆目的 若者たちの門出を祝い励ますと共に、社会を担っていく主体としての自覚を促す。 ◆事業費 2 3 5 円（財源 一般 2 3 5 千円）			
実 績	◆令和 7 年三戸町二十歳を祝う会実行委員会 開催日 令和 6 年 9 月 1 2 日（木） 場 所 三戸町中央公民館 参加者 2 人 ◆令和 7 年三戸町二十歳を祝う会 ・令和 7 年 1 月 1 2 日（日） 対象者 8 6 人 ◆記念品 ・集合写真			
成果と課題	◆成果 ・対象者による実行委員会を組織し、企画・運営させることで、主体的に二十歳を祝う会に進んで社会参加しようとする意識の高揚を図ることができた。 ・式典、セレモニーなどにおいて、対象者へ役割を持たせ、二十歳としての自覚を持たせることができた。 ◆課題 ・今後、対象者の人数も減っていくので、式典やセレモニーの内容など検討していく必要がある。			
事業の方向性	継続	○	拡充	
	改善		縮小	

〔コ〕 三戸町人材活用講師派遣事業				
事業の概要	◆目的 町内小中学校での授業等教育活動の円滑な運営に資するため、地域において各種技能や知識、経験を有する町民を講師として学校に派遣するものである。 ◆事業費 1 5 千円（財源 一般 1 5 千円）			

実 績	◆なし			
成果と課題	◆成果 なし ◆課題 ・活用団体が少ないため、呼びかけや周知を行う。			
事業の方向性	継続 改善	○	拡充 縮小	

〔サ〕 ふれあい活動事業（再掲） （学校・家庭・地域の協働による未来を担う人財の育成と関連）				
事業の概要	◆目的 子どもからお年寄りまで、早朝にあいさつをかわし、ふれあいながら、ごみ拾い、草取りや落ち葉拾いなど清掃・環境美化活動を行うことにより、各人が、自分の住んでいる地域を愛する心を育てるとともに、きれいで快適な町づくりに資するため実施するものである。 ◆事業費 0千円（財源 一般0千円）			
実 績	◆年3回、花植え、ゴミ拾い、河川敷清掃、草刈り等の環境美化活動を実施。 第1回活動：令和6年 6月 2日（日） 第2回活動：令和6年 8月 4日（日） 第3回活動：令和6年10月 6日（日）			
成果と課題	◆成果 ・活動は定着しており、地域コミュニティ強化の一助となっている。 ◆課題 ・子どもたちの参加が少ないので、各町内会の会長や子ども会の会長への呼びかけや学校からの周知を依頼する等、参加の促進を図る。			
事業の方向性	継続 改善	○	拡充 縮小	

（３）一人一人の主体的な学習と社会参加の推進

〔シ〕 三戸オープンキャンパス（旧：公民館講座）				
事業の概要	◆目的 町民の学習ニーズに応じて、自発的な学習意欲を高め、自らに適した手段・方法で受講できるさまざまな学習機会を提供することにより、生涯学習の推進を図る。 ◆事業費 590千円（財源 一般590千円）			
実 績	（１）講座数 長期：13講座（新規講座3） 短期：なし （２）講座内容 長期 ①料理教室 ②健康教室 ③体スッカリかんたん筋トレ ④体スッカリかんたん筋トレ ⑤カキ教室 ⑥フラダンス教室 ⑦鉛筆画教室 ⑧ルーシーダットン ⑨はじめてのフラダンス ⑩ラージボール卓球教室 ⑪郷土料理 ⑫からだの学校 ⑬やさしいヨガ教室 （３）受講者数 169名（延べ677名） （４）講師謝金 536,000円（13講師 95回 一回あたり6,000円～9,000円） （５）委託費 54,000円（1講座：体スッカリかんたん筋トレ）			
成果と課題	◆成果 ・アンケート結果から町民の希望に添った講座を開講することができた。 ◆課題			

	・若い年代層の参加者にも参加してもらうため、開催曜日、時間等を考える必要がある。			
事業の 方向性	継続	○	拡充	
	改善		縮小	

〔ス〕 公民館分館講座委託事業																																																	
事業の概要	◆目的 各分館が地域性を生かしながら、住民の健康増進、教養の向上、伝統文化の継承、世代間交流等を通して地域住民の親和を図り、もって豊かな地域づくり、まちづくりに寄与する。 ◆事業費 540千円（財源 一般540千円）																																																
実績	◆（１）分館数 6分館（泉山、梅内、目時、貝守、蛇沼、大舌） ※豊川、袴田、杉沢、斗内は中止。 ※下田は活動休止中。 （２）講座数 講座（全分館分） （３）主な講座内容 手芸教室、健康教室、手芸教室、登山教室、写真教室 （４）参加者数 412名（延べ415人数） （５）講座委託料 1分館 50千円 （６）分館職員報酬 分館長30千円 主事12千円 書記12千円 （７）分館講座一覧 <table><tr><th>分館名</th><th>講座名</th><th>講座内容</th></tr><tr><td rowspan="4">泉山</td><td>りんご視察研修</td><td>技術の習得</td></tr><tr><td>健康教室</td><td>体操の習得</td></tr><tr><td>りんご剪定講座</td><td>剪定技術の習得</td></tr><tr><td>神楽伝承講座</td><td>伝統芸能の習得</td></tr><tr><td rowspan="3">梅内</td><td>手芸教室</td><td>干支のカレンダーづくり</td></tr><tr><td>健康教室</td><td>健康教育</td></tr><tr><td>手芸教室2</td><td>姉さん被り作り教室</td></tr><tr><td rowspan="3">貝守</td><td>軽スポーツ講座</td><td>ペタンク</td></tr><tr><td>スケート教室</td><td>スケートを楽しむ</td></tr><tr><td>健康教室</td><td>相撲ストレッチ</td></tr><tr><td rowspan="3">蛇沼</td><td>登山教室</td><td>登山を楽しむ</td></tr><tr><td>登山教室</td><td>登山を楽しむ</td></tr><tr><td>写真教室</td><td>風景を楽しむ</td></tr><tr><td rowspan="3">大舌</td><td>環境整備</td><td>草刈り、花植</td></tr><tr><td>手芸教室</td><td>カゴ作り、クラフトカゴ作り</td></tr><tr><td>料理教室</td><td>串もち作り、そば作り</td></tr><tr><td rowspan="3">目時</td><td>教養教室</td><td>婦人研修</td></tr><tr><td>親子レク</td><td>ニュースポーツ、花火</td></tr><tr><td>三世代交流会</td><td>室内スポーツ、もちつき</td></tr></table>		分館名	講座名	講座内容	泉山	りんご視察研修	技術の習得	健康教室	体操の習得	りんご剪定講座	剪定技術の習得	神楽伝承講座	伝統芸能の習得	梅内	手芸教室	干支のカレンダーづくり	健康教室	健康教育	手芸教室2	姉さん被り作り教室	貝守	軽スポーツ講座	ペタンク	スケート教室	スケートを楽しむ	健康教室	相撲ストレッチ	蛇沼	登山教室	登山を楽しむ	登山教室	登山を楽しむ	写真教室	風景を楽しむ	大舌	環境整備	草刈り、花植	手芸教室	カゴ作り、クラフトカゴ作り	料理教室	串もち作り、そば作り	目時	教養教室	婦人研修	親子レク	ニュースポーツ、花火	三世代交流会	室内スポーツ、もちつき
分館名	講座名	講座内容																																															
泉山	りんご視察研修	技術の習得																																															
	健康教室	体操の習得																																															
	りんご剪定講座	剪定技術の習得																																															
	神楽伝承講座	伝統芸能の習得																																															
梅内	手芸教室	干支のカレンダーづくり																																															
	健康教室	健康教育																																															
	手芸教室2	姉さん被り作り教室																																															
貝守	軽スポーツ講座	ペタンク																																															
	スケート教室	スケートを楽しむ																																															
	健康教室	相撲ストレッチ																																															
蛇沼	登山教室	登山を楽しむ																																															
	登山教室	登山を楽しむ																																															
	写真教室	風景を楽しむ																																															
大舌	環境整備	草刈り、花植																																															
	手芸教室	カゴ作り、クラフトカゴ作り																																															
	料理教室	串もち作り、そば作り																																															
目時	教養教室	婦人研修																																															
	親子レク	ニュースポーツ、花火																																															
	三世代交流会	室内スポーツ、もちつき																																															
成果と課題	◆成果 ・各分館の自主的な企画によりそれぞれの地域の特性を活かした講座を開催することができている。 ・一人暮らしの高齢者などの交流の場ともなっており、地域の活性化につながっている。 ◆課題 ・分館職員の確保や参加者の減少等が課題となっており、活動休止中の分館もあるため、																																																

	今後も継続していけるよう活動方法を考えなければならない。			
事業の 方向性	継続	☐	拡充	☐
	改善	☐	縮小	☐

〔セ〕 気軽に学べる歴史セミナー（旧名称：三戸町歴史講座）				
事業の概要	◆目的 先人の歩んだ道や今も残る文化的遺産について深く知るとともに、郷土を大切に思う心を育むことを目的とする。 ◆事業費 42千円（一般財源42千円）			
実 績	◆講座概要 内容：郷土の文化や歴史を楽しんで学ぶための講演を行う 会場：三戸中央公民館ホール 備考：開催日は土曜日 ◆講座内容			
	開催日	演 題	講 師	受講者数
	第1回 令和6年 5月25日	「九戸一揆」 ～奥州再仕置と三戸～	滝尻侑貴氏	25名
	第2回 令和6年 6月22日	「大平山元遺跡の最新情報」 ～暮らしの変化を読み解く～	駒田 透氏	10名
	第3回 令和6年 7月 6日	「盛岡藩の参勤交代」 ～さあて、今夜は何处に泊まるのか！～	中村隼人氏	21名
	第4回 令和6年 8月10日	「三戸と八戸のまちづくり」 ～戦国末期から江戸前期～	木村明彦氏	11名
	第5回 令和6年 9月14日	「南部盛岡藩御用港 野辺地と北前船」 ～北前船によってもたらされたものと文化～	山崎杏由氏	21名
			受講者総数	88名
成果と課題	◆成果 ・郷土に対する文化や歴史理解の促進につながった。 ・三戸地方のほか県内の歴史や文化に関するテーマで実施したことにより、文化や歴史理解を深められた。 ◆課題 ・当該セミナーのアンケート結果では、受講者のほとんどが講演内容に「満足している」「今後も参加したい」との回答であったが、前年度に引き続き受講者の固定化が見られるため、幅広い世代から関心を持たれるような取り組みが必要である。 ・「三戸お城講座」と名称が似ていることから、「気軽に学べる歴史セミナー」に名称を変更し、講演テーマも歴史のみならず文化的遺産に関するものまで広げたが、受講者数は前年度とほぼ同数となり大幅な増加とはならなかった。当該セミナーの実施内容等の計画を再考していく必要がある。			
事業の方向性	継続	○	拡充	
	改善	○	縮小	

〔ソ〕 高齢者学級寿教室				
事業の 概要	◆目的 高齢者が心身ともに健康で生きがいのある生活を送ることができるよう高齢者の生活課題に関連した学習機会や喜びや楽しさを感じられる機会を提供する。			

	◆事業費 480千円（財源 一般480千円）			
実績	◆実施概要 （１）学級生数 66名（男性15名・女性51名） （２）最高齢者 93歳 平均年齢79歳 （３）学習会の実施状況 ①第52回開級式 令和6年 4月22日（月） 37名 ②「バス研修（青森県横浜町）」 令和6年 5月20日（月） 34名 ③「グラウンドゴルフ講座」 令和6年 6月17日（月） 29名 ④「①からだを動かそう」 令和6年 7月22日（月） 25名 ⑤「②からだを動かそう」 令和6年 8月19日（月） 19名 ⑥「パークゴルフ講座」 令和6年 9月24日（月） 23名 ⑦「テーブルマナー講座」 令和6年10月21日（月） 35名 ⑧「人権教室」 令和6年11月18日（月） 25名 ⑨「議会を傍聴しましょう」 令和6年12月16日（月） 22名 ⑩「シニア向け調理実習」 令和7年 1月20日（月） 25名 特「スマートフォン教室」 令和7年 2月17日（月） 9名 ⑪「沼沢町長とお話会」 令和7年 2月10日（月） 31名 ⑫第52回閉級式 令和7年 3月24日（月） 33名 （４）クラブ活動の実施 書道クラブ、グラウンドゴルフクラブ			
成果と課題	◆成果 ・高齢者が集う機会を提供することにより、交流が生れ、様々な生涯学習への参加が促されている。 ・仲間とふれあい、楽しみながら学習会に参加することができ、高齢者の生きがいがづくりの場となっている。			
事業の方向性	◆課題 ・講座内容について、学級生の希望を取り入れて楽しんでもらえるようなものを考える必要がある。			
	継続	○	拡充	
	改善		縮小	

〔タ〕 三戸キッズチャレンジ（旧：子ども公民館講座）				
事業の概要	◆目的 普段、公民館を利用することが少ない子どもたちに、夏休みや冬休みなどを利用し、ものづくり体験をとおして、仲間とのふれあいや交流を深めることにより、健全な子どもの育成の一助とする。 ◆事業費 50千円（一般財源50千円）			
実績	◆第1回 キッズクッキング ・令和6年8月17日（土） （１）開催場所 アップルドーム 調理室 （２）参加者 6名 （３）内 容 簡単な料理を体験する（野菜たっぷりタコライス） ◆第2回 パフェ作り体験 ・令和6年9月21日（土） （１）開催場所 アップルドーム 調理室 （２）参加者 22名			

	(3) 内 容 パフェ作りを体験する ◆第3回 スイーツデコ講座 ・令和6年12月7日(土) (1) 開催場所 三戸町中央公民館 (2) 参加者 10名 (3) 内 容 スイーツデコ(食べられないスイーツ)体験			
成果と課題	◆成果 ・学校では普段できない体験学習の機会を子ども達に与えることができた。 ◆課題 ・時代や子ども達のニーズに沿った活動をしていきたい。			
事業の方向性	継続 改善	○	拡充 縮小	子どもたちの興味のある分野に沿った講座を開催する。

〔チ〕 公民館まつり開催事業				
事業の概要	◆目的 公民館を学習拠点とした生涯学習活動団体に、発表の場を提供し、その成果を広く町民に紹介する機会を設けることにより、生涯学習の推進を図ることを目的とする。 ◆事業費 0円			
実績	◆作品展示 (1) 期 間 令和6年11月2日～4日 (三戸町総合文化祭、子ども文化作品展と併催) (2) 来場者数 延べ1,150人(3日間合計) (3) 出品数 ・公民館講座・サークル作品 トールペイント 17点、書道 17点、 絵手紙サークル川の驛 78点、鉛筆画 29点 梅内分館 6点 計147点			
成果と課題	◆成果 ・公民館講座で制作した作品の展示の場を提供することができた。 ・三戸町総合文化祭、子ども文化作品展と併催したことで、多くの町民に活動の成果を見せることができた。 ・体験ブースを設置し、子どもから高齢者まで楽しむ場を提供することができた。 (鉛筆画教室) ◆課題 ・参加団体が減少しているため、多くの人に参加してもらえるような取組みを考える必要がある。			
事業の方向性	継続 改善		拡充 ○ 縮小	

(4) 社会教育推進のための基盤整備

〔ツ〕 三戸町中央公民館管理運営				
事業の概要	◆目的 生涯学習の中核的施設として、町民のために実生活に即した各種の事業を実施し、町民の教養の向上及び健康増進並びに住民相互の交流が図られるよう、施設の適切な維持管理及び整備充実を図るものである。 ◆公民館運営費総額 16,871千円(財源 一般 16,697千円 特定 174千円) ◆公民館使用料収入 147千円			

実 績	◆概要 ・ボイラー整備関係 154千円 ・年間利用者人数 8,418人（令和5年度 8,952人）			
成果と課題	◆成果 ・公民館建物は建築後56年経過し、古い建物ではあるが適切な維持管理を行い、利用者には特に支障なく利用して頂くことができた。 ◆課題 ・修繕が必要とされるものが数多く出てくると思われるので、今後も適切な維持管理が必要である。			
事業の方向性	継続	☐	拡充	☐
	改善	☐	縮小	☐

〔テ〕 社会教育関係団体補助事業				
事業の概要	◆目的 社会教育活動の推進を目的に実施される事業に対し、補助金を交付することにより、事業の円滑かつ有効な推進の一助とするものである。 ◆事業費 1,858千円（財源 一般1,858千円）			
実 績	◆三戸町連合婦人会事業 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 230千円 ◆三戸町子ども会育成連絡協議会事業 ・・・・・・・・・・ 310千円 ◆三戸町文化協会事業 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 400千円 ◆三戸町風づくりを楽しむ会事業 ・・・・・・・・・・ 20千円 ◆三戸町連合父母と教師の会事業 ・・・・・・・・・・ 80千円 ◆三戸町高齢者学級寿教室事業 ・・・・・・・・・・ 480千円 ◆三戸菊クラブ事業 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 338千円 合計 1,858千円			
成果と課題	◆成果 ・補助金の交付により各団体の事業が円滑に推進され、社会教育活動推進の一助となっている。 ◆課題 ・各団体の会員の減少・高齢化が進んでおり、新規会員の加入促進が課題となっている。			
事業の方向性	継続	☐	拡充	☐
	改善	☐	縮小	☐

〔ト〕 サークル活動への支援				
事業の概要	◆目的 自主的な学習活動の推進の観点からサークル活動を支援するため、活動場所として公民館施設の提供等の支援を行う。 ◆事業費 0円			
実 績	◆公民館利用サークル 団体数18 つばみ会、よさこい三戸チーム、カ・マイレ・フラサークル、フラサークルkoko、三戸町民俗芸能保存会、寿舞踊クラブ、キャンパスの会、コーラスドルチェ、トールペイント教室、三戸菊クラブ、三戸絵画サークル、手話サークルさんのへ、書道クラブ、絵手紙サークル川の驛、囲碁クラブ、将棋愛好会、押し花サークル			
成果と課題	◆成果 ・公民館講座から独立した団体の活動の場を提供できている。 ◆課題			

	・作品制作や舞踊以外のサークルの発表の場が少ない。			
事業の 方向性	継続	○	拡充	
	改善		縮小	

〔ナ〕 三戸町立図書館の運営				
事業の 概要	◆目的 自由で公平な資料の提供を中心とする諸活動により、町民の教養、調査及びレクリエーション等に奉仕する。 ・図書館蔵書の貸し出し、閲覧 ・レファレンス(利用者の調査への対応)の実施 ・県内図書館との相互貸借、移動図書及び配本を含む図書資料の貸し出し ・図書資料の選書、除籍 ◆事業費 27,991千円(財源 一般27,991千円)			
実 績	◆概要 ・年間開館日数 295日(前年度 297日) ・年間貸出冊数 17,390冊(前年度 16,615冊) ・年間入館者数 9,199人(前年度 8,702人) ・蔵書冊数 48,338冊(前年度 47,826冊)			
成果と 課題	◆成果 ・館内一般室の学習エリアに調査研究や学習支援を目的とした利用者用光回線(Wi-Fi)を導入し、利用者の利便性向上につなげることができた。 ・公式SNSの開始により、図書館情報を幅広い世代に向けて発信することができた。 ◆課題 ・施設の老朽化が進んでおり修繕箇所が増えている。 ・図書館の利用価値や滞在性を高めるため、図書館サービスの質的向上と利用者の満足度を高めていくよう努める必要がある。			
事業の 方向性	継続	○	拡充	
	改善	○	縮小	

(5) 生涯スポーツの振興

〔ニ〕 総合優勝制町内対抗スポーツ大会			
事業の概要	◆目的	町民の体力、健康保持並びに増進を図り、町民相互の交流・親睦を図る。また、スポーツ人口の底辺拡大とスポーツの日常化を図る。	
	◆事業費	439千円（財源 一般439千円）	
実 績	◆概要	第35回大会は、以前行っていたビニールバレーボール競技を再開し、また、障害者スポーツであるボッチャを取り入れた。町民大運動会は、各町内からの要望を受けて、午前日程での開催とした。	
	①ラダーゲッター	令和5年11月27日（月）～12月1日（金）	14町内参加
	②ユニカール	令和6年1月22日（月）～26日（金）	13町内参加
	③バグー	令和6年2月20日（月）～22日（木）	14町内参加
	④ビニールバレー	令和6年5月13日（月）～17日（金）	14町内参加
	⑤ボッチャ	令和6年6月17日（月）～21日（金）	14町内参加
	⑥カローリング	令和6年7月 8日（月）～12日（金）	13町内参加
	⑦町民大運動会	令和6年10月13日（日）	14町内参加

成果と課題	◆成果 ・町民相互の交流、親睦が図られ連帯意識を高めることができた。 ・新たな種目も取り入れながら、町民の体力、健康の維持、増進を図ることができた。 ◆課題 ・町民大運動会について、例年９月末に開催していたものを、他の行事が行われることになり１０月へ変更としてるが、全町内の参加が難しい状況となっている。また、町内によっては、参加者が少ないとの声がある。他町村では、全町民参加型の運動会を見直す動きがある。今後、三戸町においても運動会の在り方について見直す必要がある。			
事業の方向性	継続	○	拡充	
	改善		縮小	

〔ヌ〕 町民歩け歩け運動				
事業の概要	◆目的 身体に負担をかけず、運動に慣れていない人にも理想的な運動方法であると同時に、肥満予防など健康効果が期待できるなど、だれもができる健康づくりのひとつであるウォーキングを通して、健康づくりの推進及び参加者相互の交流を図る。 ◆事業費 ０千円			
実績	◆概要 実施日 令和６年８月２７日（日） 場 所 岩手県葛巻市（平庭高原） 参加者 ８名			
成果と課題	◆成果 晴天に恵まれ、参加者がけがすることも、体調を崩すこともなく、健康づくりを推進することができた。 ◆課題 参加者数が少なかった。今後は他の課とも話し合いを進めて事業を考えて行かなければならない。			
事業の方向性	継続		拡充	
	改善	○	縮小	○

〔ネ〕 三戸町スポーツ賞表彰				
事業の概要	◆目的 三戸町スポーツ賞表彰規則に基づき、当町のスポーツの振興発展のため功績のあった個人・団体又はスポーツ活動において優秀な成績を収めた個人・団体を表彰するとともに、町民へ受賞者を紹介し、町全体でその功績を讃えるものである。 ◆事業費 １００千円（財源 一般１００千円）			
実績	◆【スポーツ賞】 ５個人・１団体 【スポーツ奨励賞】 ９個人・３団体 合 計 １４個人・４団体			
成果と課題	◆成果 ・各種スポーツ競技において競技者として優秀な成績を収めた方々を表彰し、町広報誌等により広く町民に周知することにより、スポーツ競技者等のさらなる意欲の向上に寄与すると共に町民のスポーツに関する興味・関心の拡大につながった。 ◆課題 ・各賞の被表彰候補者の情報収集について広く周知し、できる限り表彰できるよう仕組みづくりを検討する。			

事業の 方向性	継続 改善	○	拡充 縮小	
------------	----------	---	----------	--

〔ノ〕 各種スポーツ大会補助事業				
事業の 概要	◆目的 各体育団体が行うスポーツ大会の開催に対する補助を目的とする。 ◆事業費 940千円（財源 一般940千円）			
実 績	◆概要 ◆県民駅伝競走大会出場補助金 ・・・・・・・・・・ 470千円 ◆桜まつりマラソン大会補助金 ・・・・・・・・・・ 180千円 ◆鏡里杯相撲大会補助金 ・・・・・・・・・・ 290千円			
成果と 課題	◆成果 ・各団体の大会開催について支援し、スポーツの振興に寄与できたとともに、大会運営や参加状況など将来的な方向性を確認できた。 ◆課題 ・特になし			
事業の 方向性	継続 改善	○	拡充 縮小	スポーツ大会が円滑に実施されるよう補助金の交付を行い、多くの参加者が競技を楽しみスポーツに親しめるよう援助していきたい。

〔ハ〕 三戸町体育協会支援事業				
事業の 概要	◆目的 三戸町体育協会の活動を支援し、町民の体育振興を図ることを目的とする。 ◆事業費 1,800千円（財源 一般 1,800千円）			
実 績	◆補助金交付額 1,800,000円 ◆実施事業 （１）競技団体等への活動費補助（総額790千円） 17の競技団体及びスポーツ少年団への補助金交付 （２）普及振興事業 ・元旦マラソンの開催 令和7年1月1日（水）86人参加 （３）教室等の開催 ・スポーツ教室 開催種目 ソフトテニス（14人）、剣道（9人）、相撲（10人） 登録児童・生徒数 33人 ・ノルディックウォーキング教室 実施日 令和7年 2月15日（町民体育館 12人参加） 令和7年 2月29日（町内屋外 10人参加） 令和7年 3月22日（町民体育館 9人参加） 令和7年 3月29日（アップルドーム7人参加） 講 師 SANWINS Athlete Club 代表 中山 広光 氏 （４）指導者資格取得・更新促進助成事業 陸上競技協会（5人）、サッカー協会（2人）、バスケットボール協会（7人）			
成果と 課題	◆成果 ・各加盟協会へ補助金を交付することにより、大会やスポーツ教室等事業が積極的に展			

	開され、競技スポーツの振興が図られている。			
	◆課題 ・加盟競技団体の会員の減少や高齢化が進んでおり、新規会員の加入促進が課題となっている。			
事業の方向性	継続 改善	○	拡充 縮小	

〔ヒ〕 スポーツ指導者の養成・活用				
事業の概要	◆目的 町民のスポーツ振興と競技力向上、そして地域の実態や住民のニーズに応じた指導ができる人材を育成することを目的とし、三戸町スポーツ推進委員などの資質と指導力を高める。 ◆事業費 1, 153千円（財源 一般1, 153千円）			
実績	◆スポーツ推進委員の研修及び会議 (1) 三八地区スポーツ推進委員研修会（6人参加） (2) 東北地区スポーツ推進委員研修会（0人参加）※隔年参加 (3) 三八地区地域スポーツ推進事業（14人参加） (4) 全国スポーツ推進委員研究協議会宮崎大会（0人参加） (5) 第1回三戸町スポーツ推進委員会会議（11人参加） (6) 第2回三戸町スポーツ推進委員会会議（7人参加） ◆各種スポーツ大会等における推進委員による実技・ルール指導及び運営補助等 (1) 総合優勝制町内対抗スポーツ大会（運営補助） (2) 貝守地区ペタンク大会（運営補助）			
成果と課題	◆成果 ・三戸町スポーツ推進委員が各研修会等に参加し、資質の向上を図ることができた。 ◆課題 ・積極的な活動を行い、より一層生涯スポーツの推進を図っていく必要がある。			
事業の方向性	継続 改善	○	拡充 縮小	

〔フ〕 勤労者体育施設管理運営（武道館・サンスポ）				
事業の概要	◆目的 町民の生涯にわたるスポーツ振興を図るため、武道館・サンスポーツランドを適切に維持管理し、快適で使いやすいスポーツ活動場所を提供することを目的とする。 ◆事業費 6, 905千円（財源 一般 6, 905千円） ◆サンスポーツランド使用料収入額 71, 810円			
実績	◆（1）武道館利用者数 925名（5年度：1, 184名） （2）サンスポ利用者数 3, 832名（5年度：5, 193名） 内訳 テニスコート 140名 野球場 3, 692名			
成果と課題	◆成果 ・学校体育や部活動、町民の健康づくり、各種大会の開催など多様な活動場所として有効に使用されるとともに、身近で気軽に利用できるスポーツ施設として、多くの住民に利用されている。 ◆課題 ・各施設で老朽化が見え始めていることから、修繕等により適切な維持管理に努める必要がある。			

事業の方向性	継続	○	拡充	
	改善		縮小	

〔ヘ〕 スポーツ少年団の育成支援				
事業の概要	◆目的 子どもたちがスポーツに親しみ、スポーツを楽しみながら、仲間との交流を図ることにより、青少年のスポーツの振興を図ると共に心身共に健康な青少年を育成することを目的に、スポーツ少年団活動を支援する。 ◆事業費 40千円（町体育協会40千円）			
実績	◆（１）各種競技会への選手派遣 （２）令和6年度登録団数 2団体 登録団員数 30名 指導者数 7名			
成果と課題	◆成果 ・全単位団が地域の指導者としたスポーツ少年団となり、それぞれの団において競技協会を中心に指導員を派遣するなど、運営をすることができた。 ◆課題 ・少子化によりチームが組めない、種目が限定される等このような状況は今後も進んでいくと思われる。町体育協会との連携をもとに、スポーツ教室等を通して子どもたちが様々なスポーツ活動に参加できる環境づくりを進める。			
事業の方向性	継続	○	拡充	
	改善		縮小	

〔ホ〕 体育館等管理運営（町民体育館・松原運動公園）				
事業の概要	◆目的 子どもから高齢者まで、生涯にわたり長く、スポーツやレクリエーションに親しむことができるよう、体育館及び松原公園の適正な維持管理を行う。 ◆事業費 松原公園維持管理費 3,134千円 ◆町民体育館使用料収入 72千円			
実績	◆町民体育館 年間利用者数 10,052人（令和5年度 11,502人） ◆松原公園 ・樹木剪定及び除草等の実施（事業費 2,035千円） ・陸上競技場・テニスコート整備（事業費 330千円）			
成果と課題	◆成果 ・町民体育館は建築後56年経過し老朽化しているが、適切な維持管理に努めており、支障なく使用することができた。 ◆課題 ・修繕が必要とされるものが数多く出てくると思われるので、今後も適切な維持管理が必要である。			
事業の方向性	継続	○	拡充	
	改善		縮小	

〔マ〕 アップルドーム管理運営				
事業の概要	◆目的 町民の生涯にわたるスポーツ及び文化活動の振興を図るため、アップルドームの適切な維持管理を行い、快適で使いやすいスポーツ及び文化のための活動場所を提供することを目的とする。			

	◆事業費 21,432千円（財源 一般21,432千円） ◆使用料収入 913千円（令和5年度765千円）		
実績	◆概要 ①学校部活、住民の健康づくり、若者のスポーツ活動、レクリエーション、各種スポーツ大会、集会等の円滑な使用に供した。 ②施設内清掃、整理整頓、施設周囲の除草等清掃の徹底をはかり、常に快適な利用に供するための適切な施設管理を行った。 ③利用者数 38,099人（令和5年度 36,048人） 主な利用施設 アリーナ（17,471人）、トレーニング室（8,243人）、調理室（1,262人）、ほのぼの館（4,669人）、職業相談室（2,164人）など ④町民に職業紹介の機会を提供するための職業相談室（八戸公共職業安定所の分室）開設のため、無料で施設を提供している。同相談室は多くの住民に利用され、その求職活動に寄与している。		
成果と課題	◆成果 ・小中高の部活動や住民の健康づくり、若者の体力づくりや仲間同士のレクリエーションの場など多様な活動場所として有効に使用された。また町民運動会のほか、雨天時や冬季のスポーツ活動の場として有効に利用されている。 ◆課題 ・多くの機器や備品があり、定期的な機器補修と更新が必要。		
事業の方向性	継続 改善	○ □	拡充 縮小

〔ミ〕 パークゴルフ場管理運営																				
事業の概要	◆目的 町民の生涯にわたるスポーツの振興を図るとともに、健康の維持増進並びに住民の交流の促進に寄与することを目的とする。 ◆事業費 10,183千円（財源 一般 10,183千円） ◆指定管理料 6,650千円 ※令和2年度より、指定管理者によりパークゴルフ場管理運営を行っている。 ◆使用料収入 2,106千円（令和4年度 2,219千円）																			
実績	◆概要 (1) 開設期間 4月6日～11月30日 (2) 開設日 239日 (3) 運営時間 午前8時30分～午後5時（6月1日～8月31日は午後6時まで） (4) 利用者数 <table><thead><tr><th>区分</th><th>総数（人）</th><th>内町外者</th><th>町外者利用率</th></tr></thead><tbody><tr><td>小・中学生</td><td>(182) 102</td><td>(120) 97</td><td>95%</td></tr><tr><td>一般</td><td>(10,823) 10,232</td><td>(4,670) 4,889</td><td>47%</td></tr><tr><td>合計</td><td>(11,005) 10,334</td><td>(4,790) 4,986</td><td>48%</td></tr></tbody></table> ()は前年 (5) 使用料収入 2,106,400円（令和5年度 2,219,100円） 令和6年度の利用者数は令和5年度に比べ、延べ671人減（町外99人増）であった。（暑さの影響あり）				区分	総数（人）	内町外者	町外者利用率	小・中学生	(182) 102	(120) 97	95%	一般	(10,823) 10,232	(4,670) 4,889	47%	合計	(11,005) 10,334	(4,790) 4,986	48%
区分	総数（人）	内町外者	町外者利用率																	
小・中学生	(182) 102	(120) 97	95%																	
一般	(10,823) 10,232	(4,670) 4,889	47%																	
合計	(11,005) 10,334	(4,790) 4,986	48%																	
成果と課題	◆成果 ・期間中、延べ1万人を超える町内及び町外利用者が訪れ、気楽に楽しめるスポーツとして周知が図られた。 ・愛好者団体のみならず、企業の親睦会など、多くの団体利用があり、パークゴルフを通じた多くの地域住民の親睦・交流の機会となった。																			

	・パークゴルフ場開設の波及効果として、隣接する道の駅、産直広場への利用者の回遊が見られ、これら3施設の複合効果で集客増につながった。 ◆課題 ・指定管理者と連携し、利用者増を図るイベント等の取り組みが必要である。 ・今後も学校や子ども会等への周知が必要である。 ・町外、県外からの利用者が多いことから、文化や観光その他三戸町の情報発信を行っていく必要がある。			
事業の方向性	継続 改善	○	拡充 縮小	

〔ム〕 町民プール管理運営																																				
事業の概要	◆目的 町民が水泳や水中運動、水に親しみながら、心身の健康増進を図り、生涯にわたるスポーツの振興に寄与することを目的とする。 ◆事業費 6, 290千円（財源 一般6, 290千円） ◆指定管理料 5, 983千円 ※平成30年度より、指定管理者により町民プール管理運営を行っている。 ◆使用料収入 38千円（令和5年度 44千円）																																			
実績	◆概要 (1) 開設期間 令和6年6月15日～令和6年9月10日 (2) 開設日 80日（休館日を除く） (3) 運営時間 夏休期間 午前9時～午後7時 夏休以外 午後10時～午後5時 (4) 利用者数 <table><tr><td>区分</td><td>総数（人）</td><td>内学校利用</td><td>内町外者</td></tr><tr><td>幼児</td><td>71</td><td>0</td><td>71</td></tr><tr><td>小学生</td><td>1, 772</td><td>1, 166</td><td>606</td></tr><tr><td>中学生</td><td>412</td><td>344</td><td>68</td></tr><tr><td>高校生</td><td>8</td><td>0</td><td>8</td></tr><tr><td>一般</td><td>181</td><td></td><td>181</td></tr><tr><td>団体</td><td>27</td><td></td><td></td></tr><tr><td>合計</td><td>2, 471</td><td>1, 510</td><td>934</td></tr></table> ※（一般付添）77人				区分	総数（人）	内学校利用	内町外者	幼児	71	0	71	小学生	1, 772	1, 166	606	中学生	412	344	68	高校生	8	0	8	一般	181		181	団体	27			合計	2, 471	1, 510	934
区分	総数（人）	内学校利用	内町外者																																	
幼児	71	0	71																																	
小学生	1, 772	1, 166	606																																	
中学生	412	344	68																																	
高校生	8	0	8																																	
一般	181		181																																	
団体	27																																			
合計	2, 471	1, 510	934																																	
成果と課題	◆成果 ・シート張りの屋内プールにより天候に左右されことなく開設することができたため、多数の利用者があった。 ・天候に左右されることがないため、小中学校の水泳の授業が計画的に実施できた。 ・利用者の事故、ケガが無く安全管理が適切に実施できた。 ・指定管理者の自主事業により、SUP体験やアクアチューブ体験、ミニ縁日などが実施された。 ◆課題 ・指定管理者の自主事業が図られたが、プールを利用した多様な体験や遊びを提供することにより、更なる利用者増が望まれる。健康増進運動を取り入れるなど成人や高齢者の利用向上も図る必要がある。																																			
事業の方向性	継続 改善	○ 縮小	拡充 縮小																																	

(6) 芸術・文化活動の充実と文化財の保存

〔メ〕 三戸町立版画工房運営				
事業の概要	◆目的 文化の町づくりの充実振興を図り、文化事業の一環として版画創作活動の進展を図る。 ◆事業費 126千円（一般財源126千円） ◆使用料収入 820円			
実績	◆利用回数 1回（前年度 1回） 利用者数 1名（前年度 1名）			
成果と課題	◆成果 ・希少な利用需要に対応できた。 ◆課題 ・施設利用回数が前年度同様1回に留まっている。将来を見据えた運営に向けての取り組みを要する。			
事業の方向性	継続	☐	拡充	☐
	改善	☐	縮小	☐

〔モ〕 芸術文化団体等補助事業															
事業の概要	◆目的 芸術文化活動の振興を図るため町内の芸術文化団体に補助金を交付する。 ◆事業費 758千円（財源 一般758千円）														
実 績	◆概要														
	<table><tr><td>団 体</td><td>主な事業</td><td>補助金額</td></tr><tr><td>三戸町文化協会</td><td>三戸町総合文化祭の開催</td><td>400千円</td></tr><tr><td>三戸町風づくりを楽しむ会</td><td>風作り講習会・風あげ大会の開催</td><td>20千円</td></tr><tr><td>三戸菊クラブ</td><td>菊作り講習会・菊花展の開催</td><td>338千円</td></tr></table>			団 体	主な事業	補助金額	三戸町文化協会	三戸町総合文化祭の開催	400千円	三戸町風づくりを楽しむ会	風作り講習会・風あげ大会の開催	20千円	三戸菊クラブ	菊作り講習会・菊花展の開催	338千円
	団 体	主な事業	補助金額												
	三戸町文化協会	三戸町総合文化祭の開催	400千円												
	三戸町風づくりを楽しむ会	風作り講習会・風あげ大会の開催	20千円												
三戸菊クラブ	菊作り講習会・菊花展の開催	338千円													
成果と課題	◆成果 ・芸術文化団体へ補助金を交付することにより、地域の文化および伝統芸能の振興を図ることができた。 ◆課題 ・各文化団体とも会員数の漸減や高齢化が進んでいる。会員の増強と後継者の育成を図っていく必要がある。														
事業の方向性	継続	○	拡充												
	改善		縮小												

〔ヤ〕 三戸町文化賞表彰				
事業の概要	◆目的 三戸町文化賞表彰規則に基づき、当町の芸術文化の振興発展のため功績のあった個人・団体又は創作活動において優秀な成績を収めた個人・団体を表彰するとともに、町民へ受賞者を紹介し、町全体でその功績を讃えるものである。 ◆事業費 150千円（財源 一般150千円）			
実績	◆【文化賞】 4個人 1団体 【文化奨励賞】 4個人 1団体 合 計 8個人 2団体			

成果と課題	◆成果 ・各種文化・芸術等の分野において指導者として貢献した方、あるいは創作・制作・演技・演奏活動等で優秀な成績を収めた方々を表彰し、町広報誌等により広く町民に周知することにより、芸術・文化活動へのさらなる意欲の向上に寄与するとともに町民の文化・芸術に関する興味・関心の拡大につながった。 ◆課題 ・町民への芸術・文化活動への啓発を続ける。 ・各賞の被表彰候補者の情報収集について広く周知し、できる限り表彰できるよう仕組みづくりを検討する。			
事業の方向性	継続	○	拡充	
	改善		縮小	

〔ユ〕 三戸城跡保存活用事業				
事業の概要	◆目的 三戸城跡を後世へ適切に伝えるための保存と活用を行う。 ◆事業費 1, 4 2 5 千円（財源 国庫補助 6 8 9 千円・一般財源 7 3 6 千円）			
実績	◆①『史跡三戸城跡保存活用計画書』の編集及び刊行 ②「ガイドさんと行く城歩き」の実施 ③「お城へ行こう！」の開催（小中学生向けの城歩き事業）			
成果と課題	◆成果 ①『史跡三戸城跡保存活用計画書』の編集刊行 ・令和6年7月5日に第5回策定委員会を開催（最終回） ・令和7年3月上旬までに計画書の編集を完了 ・令和7年3月28日、『史跡三戸城跡保存活用計画書』を刊行（300部印刷） ※本計画は、令和6年9月までに策定を完了する予定であったが、計画内容の精度を更に高める必要があったため、文化庁との協議により、事業を令和7年3月末まで延長した。 ・事業実績額＝1,395,861円（うち、688,530円は国庫補助分） ②「ガイドさんと行く城歩き」 ・城歩き案内回数：19回（ガイド謝金＝28,500円） ・解説人数：153人 ③「お城へ行こう！」の開催（小中学生向けの城歩き事業・八戸市と共催） 第1回目＝実施日：6月30日（日） 場 所：根城跡 ～土の城を歩く～ 参加数：親子11組（26人） 第2回目＝実施日：7月7日（日） 場 所：三戸城跡 ～石の城を歩く～ 参加数：親子6組（14人） ※南部家の歴史や城跡の変遷から両城の特徴を比較することで理解を高められた。 また、夏休みの自由研究の教材となるなど活用の促進につながった。 ※当該年度の参加者は、前年度より20人の減となった。 ◆課題 ・史跡三戸城跡の保存活用計画の策定を完了したことに伴い、次年度以降、当該計画書について国の認定を得られるよう手続き事務を進めていく。また、史跡の環境整備のため、『整備基本構想』の策定を進める。 ・史跡三戸城跡の保存に万全を期すため、遺構が毀損していないか日常の点検に努めていく必要がある。 ・城歩きガイドの資質向上のため、研修等の実施回数を増やしていく必要がある。また、			

	城歩きの利用を推進するため、ガイドの増員も併せて行っていく。 ・「お城へ行こう！」の参加者が大幅に減となったが、この理由として対象学年が小学4年～中学3年と幅が広く、過去に参加している人が多いことが考えられる。このため、次年度以降は、既存の授業内容の大幅な見直しを行い、過去に参加した人でも楽しめる体験内容の充実を図っていく必要がある。			
事業の方向性	継続 改善	○	拡充 縮小	○
	史跡の本質的価値の周知を図るとともに適切な保存を確実なものとし、発掘調査等の研究を継続しながら、活用と整備を推進していく。			

〔ヨ〕 歴史民俗資料館運営事業				
事業の概要	◆目的 郷土の文化財を収集・保管・調査研究するとともに、展示して一般公衆の観覧に供する。 ◆事業費 11, 188千円（財源 その他915千円・一般財源10, 273千円） ◆入館料収入 679, 010円			
実績	◆全体の実績 ・期 間：令和6年4月1日～11月30日（延べ209日間） ・入館者数：3, 562人（前年比+331人） ◆企画展の開催 「デジタル光筆画展 ー安土桃山から江戸初期の屏風絵ー」 開催期間：令和6年4月27日（土）～同年5月26日（日） 展示内容：デジタル光筆画で再現された国宝絵画『洛中洛外図屏風』・『花下遊楽図屏風』・『檜図屏風』を展示（いずれも帆風美術館所蔵）。また、三戸町の龍川寺が所有する（伝）三戸城建物襖も展示。 観覧者数：835人 ◆御城印販売事業 目的：三戸城跡の周知及び保存整備・活用を推進するため「三戸城御城印」を販売するもの。 金額：1枚300円（売上金の一部は保存整備・活用事業費へ充てる） 売上：235, 800円（販売枚数：786枚） ※当該事業は、南部領内の主要城館跡（16城）の管理団体が連携・相互協力し情報発信がなされている（南部御城印プロジェクト）。 ◆事務室用空調設備設置工事 6月7日設置完了 工事費：194, 700円			
成果と課題	◆成果 ・入館者3, 562人へ歴史情報を提供した。 ・企画展の開催により、資料を通じて安土桃山から江戸初期の文化や風習の理解の促進につながった。 ・当該御城印の販売については、南部一族に縁のある城跡が所在する自治体と広域連携を行っており、城跡の活用促進につながっている。 ・資料館事務室へエアコンを設置したことで、夏期及び冬期における職場環境を改善することができた。 ◆課題 ・当館の新規入館者の多くは、城郭とその歴史に関心を持っており、他の関連城館跡を含めた見学コースを個人で設定している。このことから、史跡三戸城跡と関係の深い周辺の市町村と連携は不可欠であり、相互活用の促進につながる情報発信について、			

	より効果的な方法がないか検討していく必要がある。 ・入館者数の増加を図る効果的な対策としては、施設の魅力を高める大規模改修が挙げられるが、この実現には経費と期間を要する。したがって、当面は施設のより良い有効活用の方策を検討しながら、入館者一人ひとりの利用に対する満足度を高めていくよう努める必要がある。 ・所蔵資料が収蔵庫の許容量を超えており収蔵庫内は資料で溢れている。このため、企画展のたびに入替作業で多くの時間を要するなど、保管場所の確保が大きな課題となっている。 ・展示室が狭く、また、固定された展示ケース等の制約から、「回遊性」や「見やすさ」について不適である。将来的には配置を含めた抜本的な見直しが必要である。 ・施設の老朽化が進んでいることから、毎年、修繕の箇所が増えている。 ・国史跡三戸城跡を訪れる人びとのニーズが多様化することが予想され、対応できる運営体制を整える必要がある。				
事業の方向性	継続改善	○ ○	拡充 縮小	○ ○	史跡三戸城跡に関する展示や体験学習等の活用に関する分野の充実を推進していく。

〔ラ〕 地域学習サポート事業																																																								
事業の概要	◆目的 郷土の歴史や文化に関する多様な学習プログラムを設定し、各種団体の地域学習に関する支援を行う（小中学校の社会科や立志科等への出前授業等）。 ◆事業費 0千円																																																							
実績	◆事業実績 実施回数：18回 利用人数：580人（※前年比+247人） 主なサポート内容 <table><tr><th>実施日</th><th>授業名称（内容）</th><th>団体名</th><th>人数</th></tr><tr><td>令和6年 6月11日</td><td>三戸城の歴史・遺構見学</td><td>八戸市鷗盟大学</td><td>60人</td></tr><tr><td>令和6年 6月23日</td><td>三戸城と城下（ウォーク）</td><td>旅する南部塾</td><td>27人</td></tr><tr><td>令和6年 7月 1日</td><td>三戸城の歴史・資料館見学</td><td>宮崎城を保存する会</td><td>21人</td></tr><tr><td>令和6年 9月 2日</td><td>三戸秋まつりの歴史</td><td>三戸小学校5年生</td><td>57人</td></tr><tr><td>令和6年 9月 5日</td><td>三戸秋まつりの歴史</td><td>斗川小学校全児童</td><td>18人</td></tr><tr><td>令和6年 9月19日</td><td>三戸町の野鳥観察</td><td>三戸小学校4年生</td><td>45人</td></tr><tr><td>令和6年10月 4日</td><td>三戸城 城歩き</td><td>盛岡の歴史を語る会</td><td>77人</td></tr><tr><td>令和6年10月31日</td><td>街道ウォーク（健康づくりとコラボ）</td><td>三戸町民</td><td>20人</td></tr><tr><td>令和6年11月 2日</td><td>馬場のぼる縁の地を訪ねるバスツアー</td><td>県内外</td><td>25人</td></tr><tr><td>令和6年12月12日</td><td>三戸城 城歩き（ロングコース）</td><td>三戸小学校6年生</td><td>56人</td></tr><tr><td>令和7年 1月20日</td><td>長く続いた戦争と人びとの暮らし</td><td>三戸小学校6年生</td><td>56人</td></tr><tr><td>令和7年 2月10日</td><td>道具とくらしのうつりかわり</td><td>三戸小学校3年生</td><td>40人</td></tr></table>				実施日	授業名称（内容）	団体名	人数	令和6年 6月11日	三戸城の歴史・遺構見学	八戸市鷗盟大学	60人	令和6年 6月23日	三戸城と城下（ウォーク）	旅する南部塾	27人	令和6年 7月 1日	三戸城の歴史・資料館見学	宮崎城を保存する会	21人	令和6年 9月 2日	三戸秋まつりの歴史	三戸小学校5年生	57人	令和6年 9月 5日	三戸秋まつりの歴史	斗川小学校全児童	18人	令和6年 9月19日	三戸町の野鳥観察	三戸小学校4年生	45人	令和6年10月 4日	三戸城 城歩き	盛岡の歴史を語る会	77人	令和6年10月31日	街道ウォーク（健康づくりとコラボ）	三戸町民	20人	令和6年11月 2日	馬場のぼる縁の地を訪ねるバスツアー	県内外	25人	令和6年12月12日	三戸城 城歩き（ロングコース）	三戸小学校6年生	56人	令和7年 1月20日	長く続いた戦争と人びとの暮らし	三戸小学校6年生	56人	令和7年 2月10日	道具とくらしのうつりかわり	三戸小学校3年生	40人
実施日	授業名称（内容）	団体名	人数																																																					
令和6年 6月11日	三戸城の歴史・遺構見学	八戸市鷗盟大学	60人																																																					
令和6年 6月23日	三戸城と城下（ウォーク）	旅する南部塾	27人																																																					
令和6年 7月 1日	三戸城の歴史・資料館見学	宮崎城を保存する会	21人																																																					
令和6年 9月 2日	三戸秋まつりの歴史	三戸小学校5年生	57人																																																					
令和6年 9月 5日	三戸秋まつりの歴史	斗川小学校全児童	18人																																																					
令和6年 9月19日	三戸町の野鳥観察	三戸小学校4年生	45人																																																					
令和6年10月 4日	三戸城 城歩き	盛岡の歴史を語る会	77人																																																					
令和6年10月31日	街道ウォーク（健康づくりとコラボ）	三戸町民	20人																																																					
令和6年11月 2日	馬場のぼる縁の地を訪ねるバスツアー	県内外	25人																																																					
令和6年12月12日	三戸城 城歩き（ロングコース）	三戸小学校6年生	56人																																																					
令和7年 1月20日	長く続いた戦争と人びとの暮らし	三戸小学校6年生	56人																																																					
令和7年 2月10日	道具とくらしのうつりかわり	三戸小学校3年生	40人																																																					
成果と課題	◆成果 ・地域学習を通じて郷土に対する理解や愛郷心を育むことができた。 ・授業の主体が体験型であることから高い学習効果が認められる。 ◆課題 ・小学3年生の社会科単元「道具とくらしのうつりかわり」で使用している教材は運搬を伴うことから、実施にあたっての準備から撤収まで、多くの時間と人員を要する。今後は、小学校校舎の空き教室を教材の保管所として活用するなど、運搬業務の軽減																																																							

	を図る必要がある。 ・長年使用を続けた教材に傷みが生じており、メンテナンスが必要なものがある。 ・小学5年生の社会科学習における用水をはじめとした近代資料の教材を補填しておく必要がある。 ・当該事業で最も要望が多いのは三戸南部家と三戸城跡についてであり、解説を補う教材を充実させる必要がある。 ・学習メニューや教材の増加に伴って、保管場所が狭隘化しており、代替の保管場所の確保が喫緊の課題となっている。 ・現在活用している教材が学習指導要領に沿ったものとして適正であるか、再検討を行い、教材の加除を進める必要がある。 ・三戸の小中一貫教育の根幹となる「立志科」の郷土学習に対応できる地域教材の更なる整備と充実を図る。			
事業の方向性	継続 改善	○ □	拡充 縮小	○ □
体験型の学習を充実させるため、教材の開発や資料の収集に努める。				

〔リ〕 伝統芸能保存継承事業（再掲） （学校・家庭・地域の協働による未来を担う人財の育成と関連）				
事業の概要	◆目的 伝統文化の保存継承のため、活動の記録作成や後継者の育成支援、発表機会の充実に努める。 ◆事業費 0千円			
実 績	◆伝統行事での各団体の活動支援及び記録作成 ①「泉山七歳児初参り」 実施日：令和6年7月25日（木） 参加した七歳児：2名 ②「三戸秋まつり」（斗内獅子舞） 実施日：令和6年9月27日（金）お通り 〃 29日（日）お環り ③「三戸元祖まける日」（斗内獅子舞の門付け） 実施日：令和7年2月8日（土） ④「おこもり（斗内獅子舞）」 実施日：令和7年2月9日（日） ⑤「泉山神楽」（泉山地区の門付け） 実施日：令和7年3月1日（土） ◆各種発表会等での各団体の活動支援 「斗川小学校学習発表会」での支援 実施日：10月5日（土） 内 容：斗内小学校1～6学年（18人）による「斗内獅子舞」番楽演舞 ◆継承活動（学校授業等）への支援 斗川小学校 1～6学年の舞の指導（総合学習） 実施日：9～10月 月曜日に2回 斗内獅子舞保存会 児童・生徒への指導 実施日：6～10月まで（合計10回）			
成果と課題	◆成果 ・活動支援により、後継者育成の一助になっている。 ・各種団体が抱える課題についてまとめることができた。 ・泉山神楽の囃子（笛、太鼓、鉦）の映像を記録保存した。 ◆課題			

	・各種団体の活動で最も重要なことは後継者の育成であり、このことが保存と継承を大きく左右する。しかし、近年の大幅な人口流出等により、どの団体も後継者の確保が困難となっている。 ・遠藤のえんぶりは平成17年に行われたのを最後に、現在まで実施されておらず、後継者の育成が大きな課題となっている。このため、最低限の保存として動作や囃子の映像記録をできる早く編集する必要がある。			
事業の方向性	継続 改善	○ ○	拡充 縮小	保存と継承を推進するには各種団体の発表の機会を充実させることが最も重要であり、団体及び関係機関に働きかけをしていく必要がある。

〔ル〕 歴史講演事業				
事業の概要	◆目的 三戸町の歴史研究及び保護を推進するとともに、地域住民が郷土の歴史に触れ、誇りを持てるよう研究成果の公開・活用を実施し、文化の発展に寄与する。 ◆事業費 300千円（財源 一般財源300千円）			
実績	◆第三回三戸お城講座の開催 実施日：令和6年11月9日（土） 会 場：三戸町民体育館 演 題：肥前名護屋城の実像 ～史上最大の軍事基地の姿～ 講 師：宮武正登氏（佐賀大学教授） 受講者：約60人			
成果と課題	◆成果 ・講演を通じて、城郭史への理解が高まった。 ・史跡の保存と活用の大切さについて周知することができた。 ・三戸城跡と三戸南部家の周知ができた。 ・参加者が約60人と、前回（約200人）より大幅に減となった。 ※同日に他の市町村でも同様の講演会が開催されたことも参加者減の原因と考える。 ◆課題 ・周辺の自治体で開催する同様の講演会と開催日が重ならないよう、日程を調整する必要がある。 ・講演の内容によって参加者数に差があるため、あらかじめ参加者の見込み数を設定したうえで、規模に見合った会場を選定した方が良い。 ・三戸町には、多様な歴史資料や伝統文化が残っていることから、これらについても、優先度に応じて、周知する機会を得るよう努めていくことが重要である。			
事業の方向性	継続 改善	○ ○	拡充 縮小	「三戸お城講座」は、城郭の講演に特化したものであり、周辺では同様の講演会がないことから、重要な事業として今後も継続していきたい。